

SMB Cグループ リテール事業部門における 「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」

SMB Cグループ リテール事業部門（注）は、個人のお客さまの資産運用業務、資産形成業務に販売会社として取り組むに当たり、SMB Cグループの「お客さま本位の業務運営に関する基本方針」に基づき、お客さま本位の業務運営に取り組んでおります。

その具体的な取組方針（以下、「取組方針」）は、下表のとおりであり、その詳細と具体的な取組状況は後述のとおりです。

取組方針	1	中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案
	2	お客さま本位の商品ラインアップの整備
	3	お客さま本位のアフターサービスの充実
	4	お客さま本位の業績評価体系の整備
	5	コンサルティング力向上に向けた取組み

今般、取組方針の中で示す以下の計数指標につきまして、新たに1つの指標（FP資格保有比率）を追加致します。

本計数指標については、SMB Cグループ リテール事業部門におけるPDCAサイクルの中で、状況を確認、分析し、お客さまへの対応や業務運営に活用を図ってまいります。

今後、取組方針に基づく具体的な取組状況を定期的に公表し、また、状況に応じ、取組方針の見直しを行ってまいります。

計数指標	
1 運用資産残高増加額	9 つみたてNISA口座開設件数・残高・新規割合
2 運用商品をお持ちのお客さま数	10 一時払保険の商品別販売額
3 運用商品の商品別販売比率	11 投資信託のグループ会社商品比率
4 投資信託平均保有期間	12 投資信託(含むファンドラップ)販売額 (毎月分配型とそれ以外の別)
5 ファンドラップの販売・解約額	13 投資信託・ファンドラップの運用損益別顧客比率
6 外貨定期預金預入額	14 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン
7 投資信託・外貨自動積立件数	15 投資信託の預り残高上位銘柄のリスク・リターン
8 投資信託・外貨自動積立金額	16 FP資格保有比率 ※新たに追加した指標

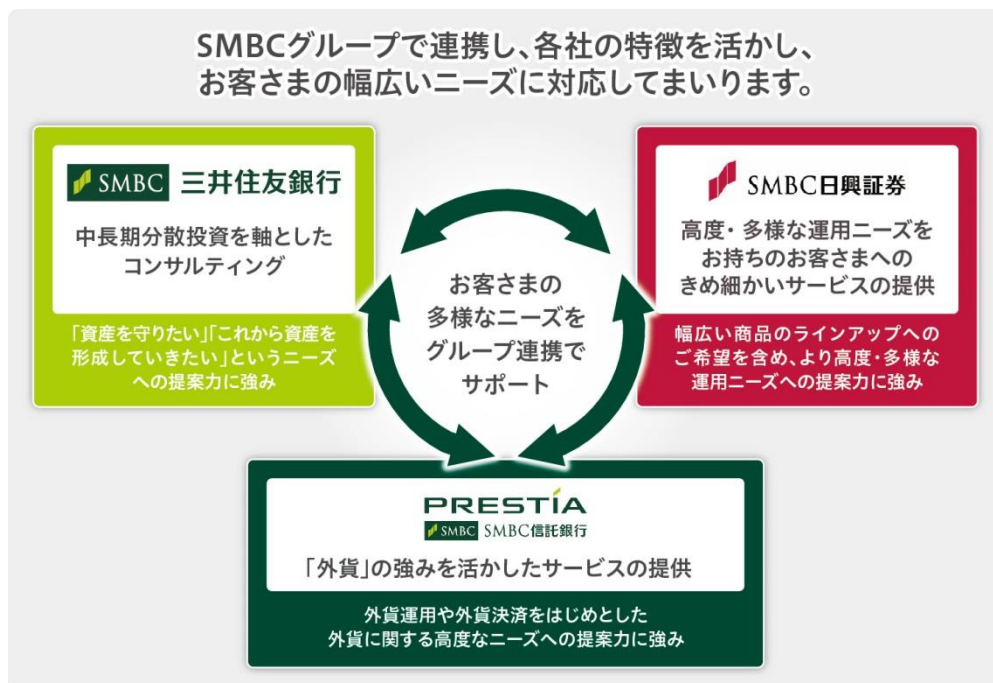
（注）SMB Cグループ：株式会社三井住友フィナンシャルグループのグループ会社の総称

SMB Cグループリテール事業部門：三井住友銀行、SMB C日興証券、SMB C信託銀行、三井住友カード、セディナ、SMB Cコンシューマーファイナンス等で構成され、資産運用業務・資産形成業務等のリテールビジネス業務を所管

取組方針1 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案

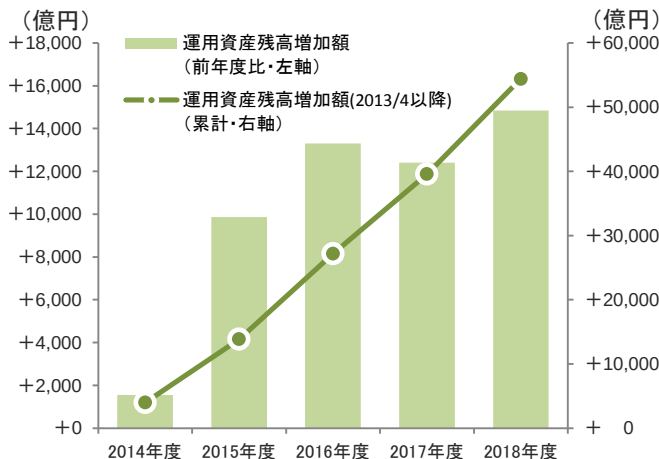
多くのお客さまがお持ちの「資産を守りたい」というニーズや「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確に対応することを主眼に置き、中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案を行ってまいります。また、それを通じて、お客さま本位の金融商品の提供に注力してまいります。

- ✓ お客さまのライフプランや資産運用に関するお考え、知識・経験、資産の状況等を十分に把握し、お客さまに適した金融資産の持ち方や商品を提案してまいります。このため、お客さまや商品の特性・リスクを踏まえながら、特に、以下のような中長期分散投資に資する提案に注力してまいります。
 - ① 資産分散のため、ファンドラップやバランスファンド等、分散型商品をコア商品として提案してまいります。
 - ② 通貨分散のため、外貨預金等の外貨建資産の提案をしてまいります。
 - ③ 「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに的確に対応するため、時間分散の観点から、投資信託や外貨の自動積立を提案してまいります。
 - ④ 保険商品については、保険商品の元来有する特徴を活用することによって、「年金」「遺す」「贈る」といったお客さまのニーズに適切に応えられるよう提案してまいります。
- ✓ SMBCグループ リテール事業部門は、三井住友銀行（以下「銀行」）、SMBC日興証券（以下「日興」）、SMBC信託銀行（以下「信託」）が、各社の特徴を活かして、それぞれが以下のようなお客さまに重点を置き、グループ全体としてお客さまの幅広いニーズに的確に対応してまいります。このため、それぞれのお客さまのニーズに応じた会社をご紹介します。



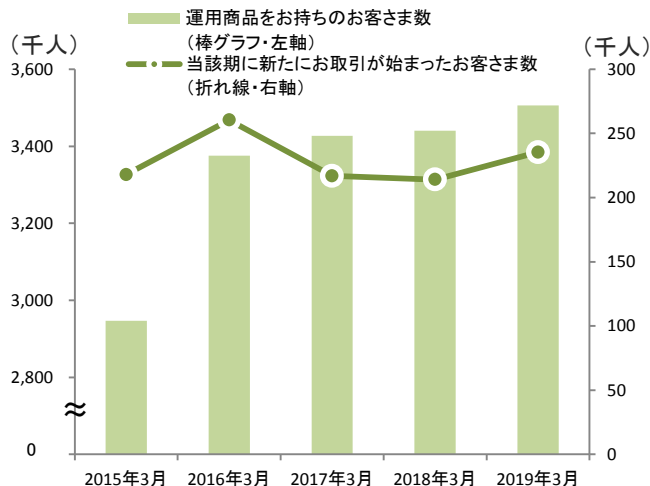
1 運用資産残高増加額

中長期分散投資を軸としたお客さま本位の取組の継続等により、2018年度も、銀行・日興・信託合算ベースで、増加基調が続いております。



2 運用商品をお持ちのお客さま数

「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確にお応えできるよう努めており、運用商品をお持ちのお客さま数は引き続き増加しております。



【参考】総金融資産を踏まえた中長期分散提案

お客さまの総金融資産を踏まえ、各種ツールにより、お客さまお一人おひとりにあったお金の持ち方の提案に努めております。

銀行

お金の色分けシート

金融資産の状況、ご資産の使いみち・目的ごとに必要な金額等をお伺いするツール

「お金の色分けシート」は、お客さまの金融資産の状況と、その使いみち・目的に基づいて、必要な金額を色分けして提案するツールです。

Step 3 今後の使いみちによって、お金を「色分け」してみませんか？

すべての金融資産を計画的に活用するために、使いみちごとにおおよその金額を記入ください

現在の生活費として確保しておくお金 (生活費の総額の「半額」の生活費「10万円」程度を記入)

将来の生活費として確保しておくお金 (将来の生活費の「半額」の生活費「10万円」程度を記入)

使いみちの決まっているお金 (マイホームの購入やリフォーム資金、お子さまの教育費、結婚資金等、おおよその金額を記入)

使いみちの決まっておらず、自由に使えるお金 (自由に使える金額を記入)

お客さまにご確認いただきたいこと

日興

One・PIT

ライフプランや金融資産の状況、資産運用に関するお考えをお伺いするツール

「One・PIT」は、お客さまのライフプランや金融資産の状況、資産運用に関するお考えをお伺いするツールです。

「One・PIT」は、お客さまのライフプランや金融資産の状況、資産運用に関するお考えをお伺いするツールです。

信託

ポートフォリオ提案ツール

モデルポートフォリオを軸とした中長期資産運用をご提案するツール

「ポートフォリオ提案ツール」は、お客さまの資産状況を踏まえた上で、モデルポートフォリオを軸とした中長期資産運用をご提案するツールです。

お客さまの投資スタイルは「中間型」です。

資産配分比率: 債券型 (約40%)、中間型 (約40%)、株式型 (約20%)

バックテスト: リターン・リスク: 将来推計

資産配分比率: 債券型 (約40%)、中間型 (約40%)、株式型 (約20%)

バックテスト: リターン・リスク: 将来推計

資産配分比率: 債券型 (約40%)、中間型 (約40%)、株式型 (約20%)

バックテスト: リターン・リスク: 将来推計

中長期分散投資に資する提案 ①資産分散

資産分散のため、ファンドラップやバランスファンド等、分散型商品をコア商品として提案してまいります。

3 運用商品の商品別販売比率

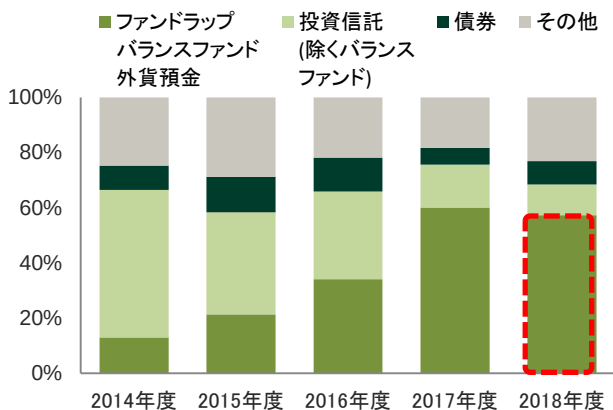
銀行

日興

信託

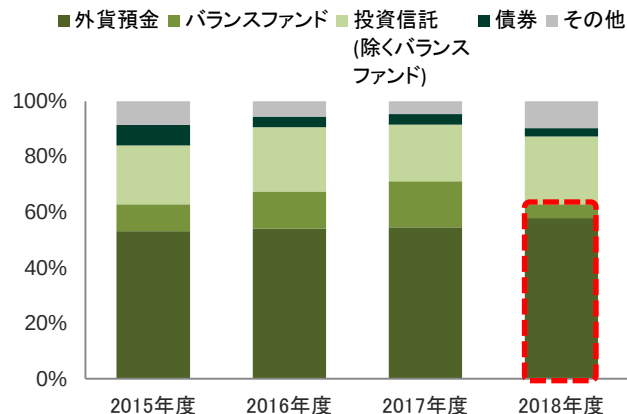
銀行

「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに、ファンドラップや外貨預金等、分散型商品をコア商品として提案しております。2018年度は、分散型商品の比率はほぼ横ばいとなっております。



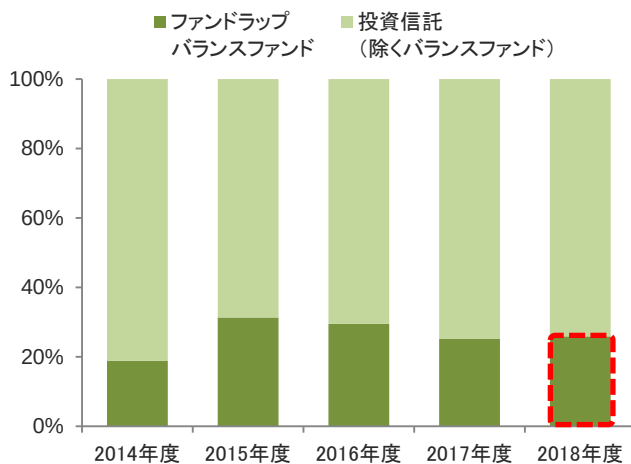
信託

外貨に関して多様なニーズをお持ちのお客さまに対し、提案力の強みを活かし、中長期分散投資を前提として、外貨建運用商品の提案に積極的に取り組んでおります。2018年度は、償還時目標設定型ファンドや債券ファンドの販売額が増加したことから、分散型商品の比率は低下しております。



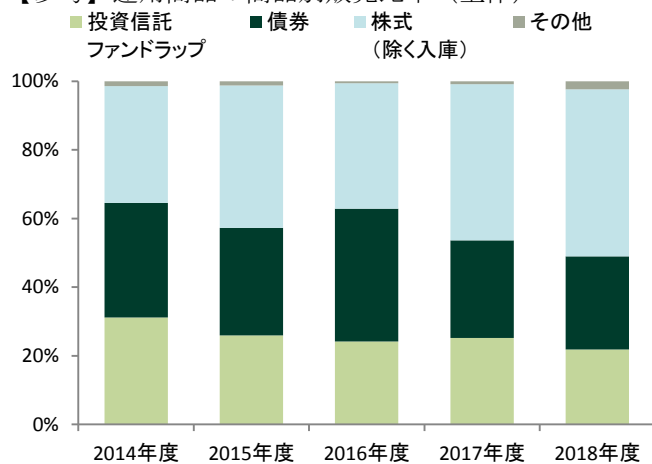
日興

より高度・多様な運用ニーズをお持ちのお客さまに、分散型商品をコアとしつつ、個別株や債券等エッジの効いた運用提案にも継続的に取り組んでおり、分散型商品（ファンドラップ・バランスファンド）の比率は前年度比ほぼ横ばいとなっております。



※ 銀行からの紹介顧客に対する販売額を含む

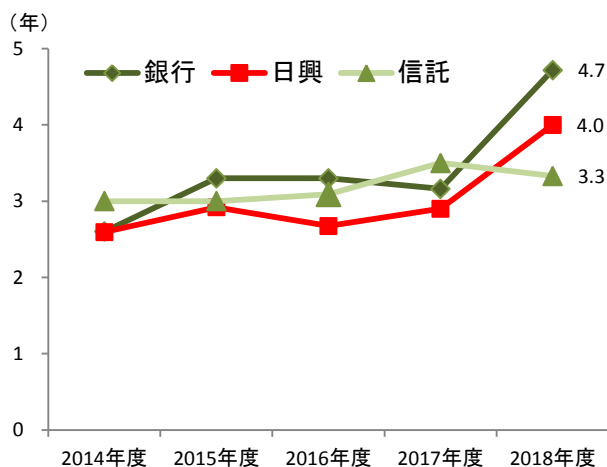
【参考】運用商品の商品別販売比率（全体）



※ 銀行からの紹介顧客に対する販売額を含む

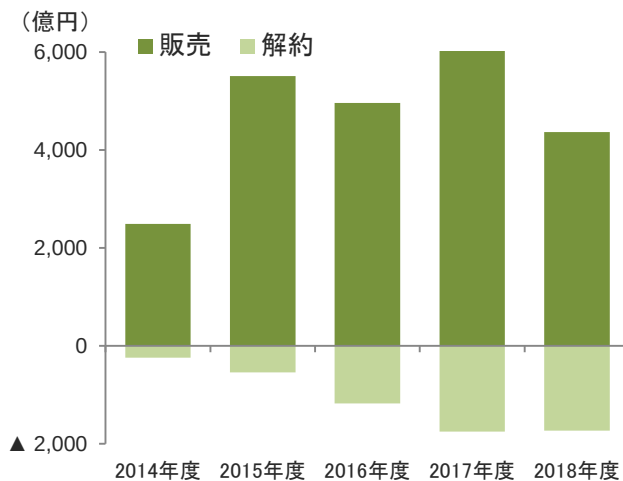
4 投資信託平均保有期間

- ・ 中長期保有に資するコア商品の提案により、投資信託を長く保有いただけるように努めております。
- ・ 2018年度は、中長期分散投資の提案の浸透等により、銀行・日興では前年対比、保有期間は長期化しております。



5 ファンドラップの販売・解約額

ファンドラップについては、中長期分散投資のコア商品のひとつとして、グループベースでの積極的な提案に努めた結果、流入が続いております。



【参考】パンフレット等を用いた分かりやすい説明

お客さまのニーズを踏まえつつ、中長期分散投資の有用性等につき、パンフレット等を用い分かりやすく説明することに努めております。

銀行



日興



信託



中長期分散投資に資する提案 ②通貨分散

通貨分散のため、外貨預金等の外貨建資産の提案をしてまいります。

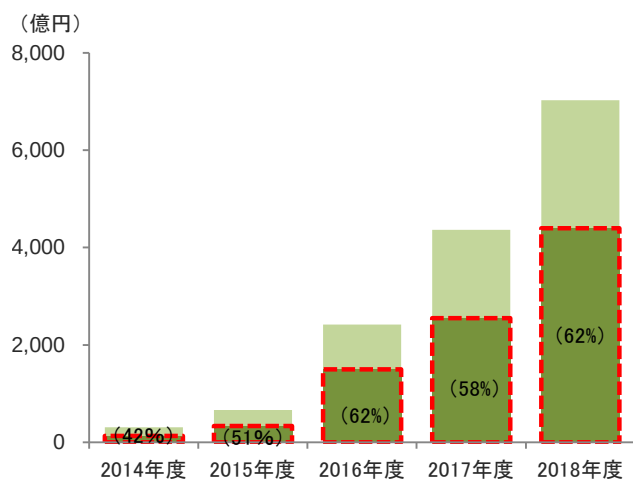
6 外貨定期預金預入額

銀行

信託

銀行

通貨分散の手段のひとつとして、外貨定期預金等の提案に努めてきた結果、2018年度は、前年度を大きく上回る水準で推移しております。

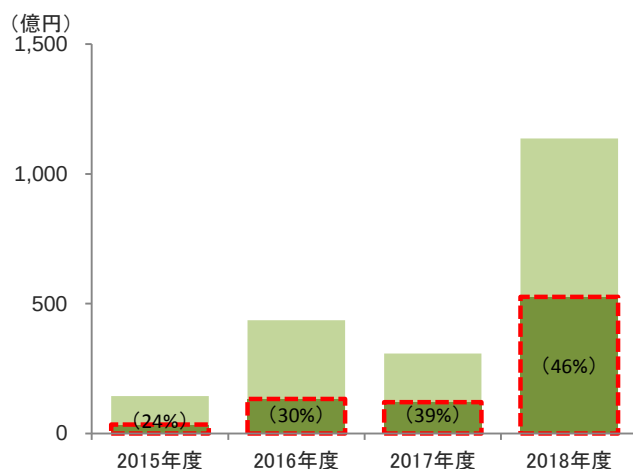


※ [赤点線枠] は新規割合 ※ 円を原資に取り組んだ外貨定期預金の金額

※ 「新規割合」は、上記のうち前期末に外貨預金残高の無いお客さまの預入額の比率

信託

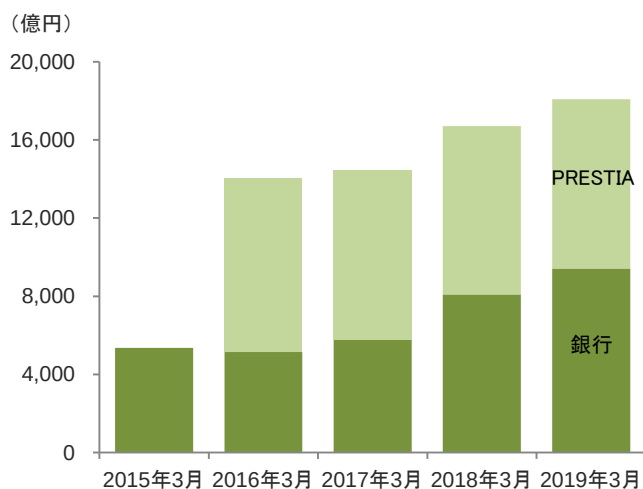
外貨定期預金については、預入額が前年度より増加し、新規割合も上昇しております。



【参考】外貨預金残高推移

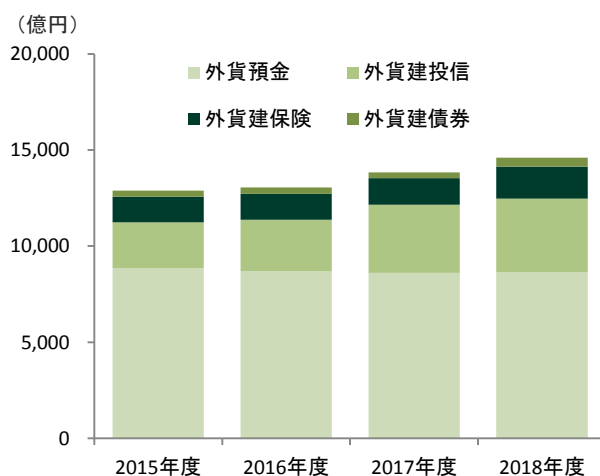
銀行

信託



【参考】外貨建運用商品残高推移

信託



※信託（SMB C信託銀行）が、2015年11月よりシティバンク銀行のリテールバンク事業をPRESTIAとして引き継いだため、2014年度についてのPRESTIA計数はなし。

中長期分散投資に資する提案 ③時間分散 ④保険ニーズ

- ◆ 「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに的確に対応するため、時間分散の観点から、投資信託や外貨の自動積立を提案してまいります。
- ◆ 保険商品の元来有する特徴を活用することによって、「年金」「遺す」「贈る」といったお客さまのニーズに適切に応えられるよう提案してまいります。

7 8 投資信託・外貨自動積立（件数、金額）

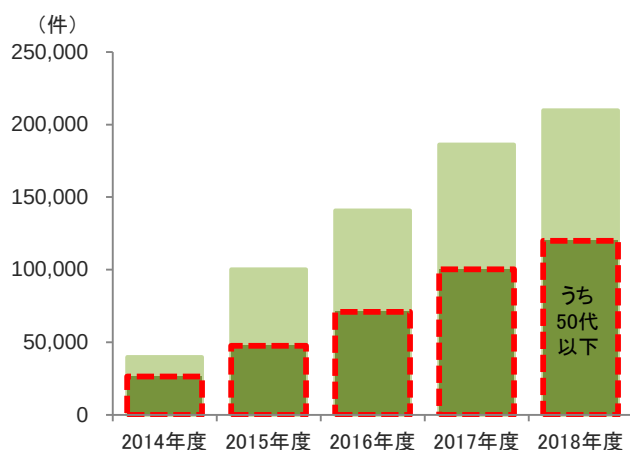
銀行

日興

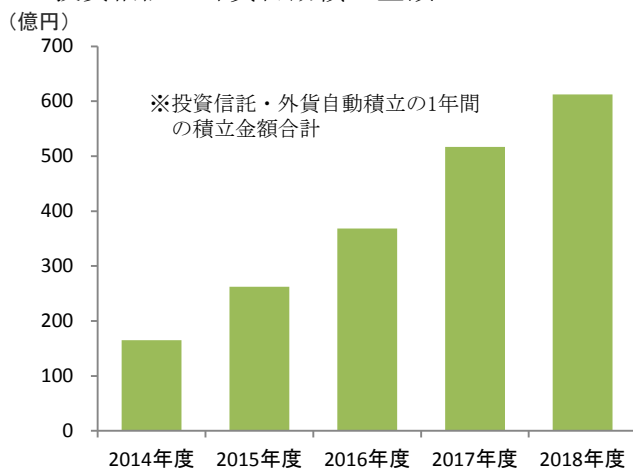
信託

「これから資産を形成していきたい」というお客さまのニーズにお応えするため、少額から可能な投資信託、外貨自動積立の提案に積極的に努めてきた結果、投資信託、外貨自動積立の件数、金額ともに、着実に増加しております。

＜投資信託・外貨自動積立件数＞



＜投資信託・外貨自動積立金額＞



9 つみたてNISA口座 開設件数・残高・新規割合 銀行

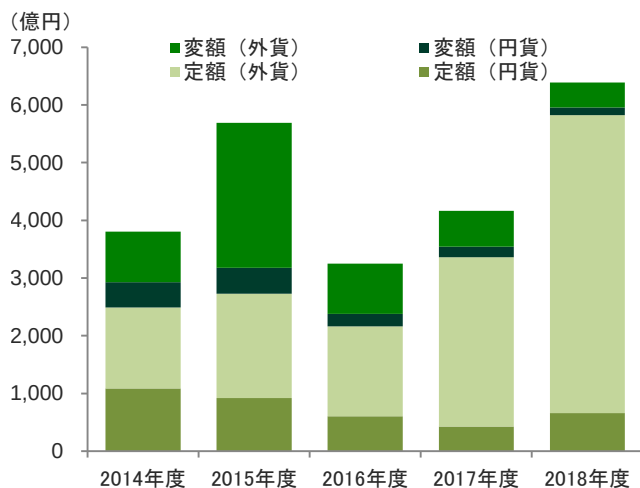
- 「これから資産を形成していきたい」というお客さまのニーズにお応えしてきた結果、以下のとおりとなっております。
- お客さまにいつでもお申込みいただけるよう、2019年3月よりSMB CダイレクトでのつみたてNISA口座開設を開始しております。

	2018年 3月末	2019年 3月末	前年同期比
口座開設数	19,749件	64,859件	+45,110件
残高	5.3億円	77.4億円	+72.1億円
新規割合	84%	72%	▲12%

※つみたてNISAのお申込時に併せて、つみたてNISAでの投信自動積立申込を受け付けております。

10 一時払保険の 商品別販売額 銀行 日興 信託

保険の本来の機能である「年金ニーズ」「遺すニーズ」「贈るニーズ」に着目したコンサルティングにより、販売額は増加しております。



取組方針2 お客様本位の商品ラインアップの整備

お客様の「資産を守りたい」というニーズや「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確にお応えできるよう、グループ会社の商品に関わらず、必要に応じ第三者評価も取り入れ、商品ラインアップを随時見直し、充実させてまいります。お客様への情報提供の充実、分かりやすさの向上に努めてまいります。

- ✓ お客様のニーズを的確に捉え、グローバル水準でより優れた商品の開発に努めるとともに、経済環境・市場動向を踏まえてグループ会社の商品に関係なく、必要に応じ第三者評価も取り入れ、幅広い投資運用会社・保険会社等からお客様のニーズに合った商品を取り揃えてまいります。また、商品導入後も継続的なモニタリングを行い、品質を維持してまいります。
- ✓ これから資産運用をお始めになるお客様や、リスクを抑えた資産運用を行いたいとお考えのお客様のニーズに幅広くお応えするため、特に銀行においては、比較的手数料率の低い商品や、為替ヘッジ付といった低リスク商品等、ラインアップを拡充してまいります。
- ✓ 販売する商品の特性・リスク・手数料・取引条件やその商品をお奨めする理由、お客様との利益相反の可能性がある場合には、その具体的内容と影響、経済環境・市場動向等に関する情報について、お客様や商品の特性・リスクを踏まえ、分かりやすくご提供するとともに、情報の充実に努めてまいります。
- ✓ お客様にお示しするパンフレットや書類については、ユニバーサルデザインを意識し、分かりやすさの工夫に努めてまいります。

11 投資信託のグループ会社（※）商品比率

銀行

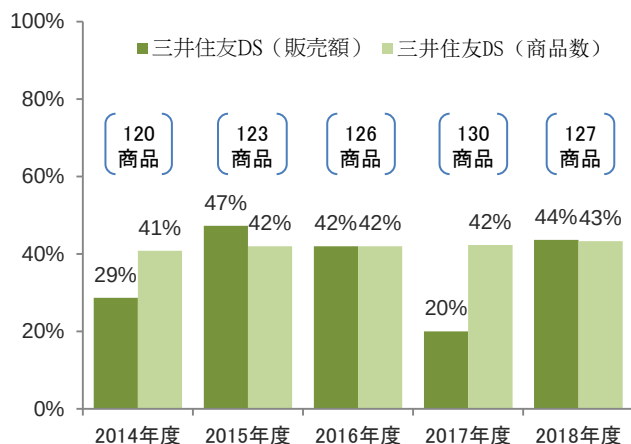
日興

信託

（※）グループ会社：三井住友DSアセットマネジメント株式会社（以下、三井住友DS）

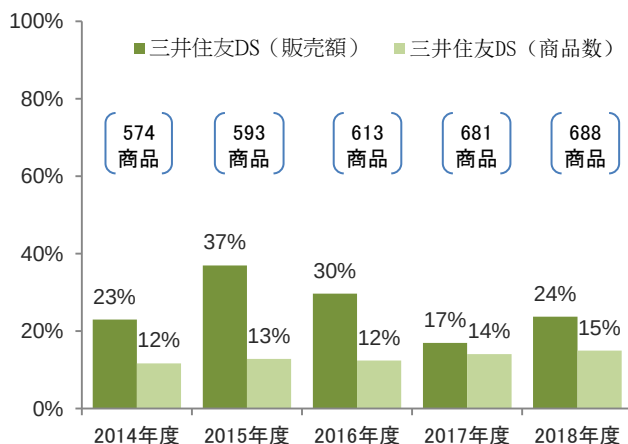
銀行

2018年度は非グループ会社の販売が落ち込んだ結果、販売額ではグループ会社比率は大きく上昇しておりますが、商品数ベースではほぼ横ばいとなっております。グループ会社商品比率は、販売額で44%、商品数で43%となっております。



日興

お客様本位の商品ラインアップ整備を進めてきた結果、グループ会社商品比率は、販売額で24%、商品数で15%となっております。



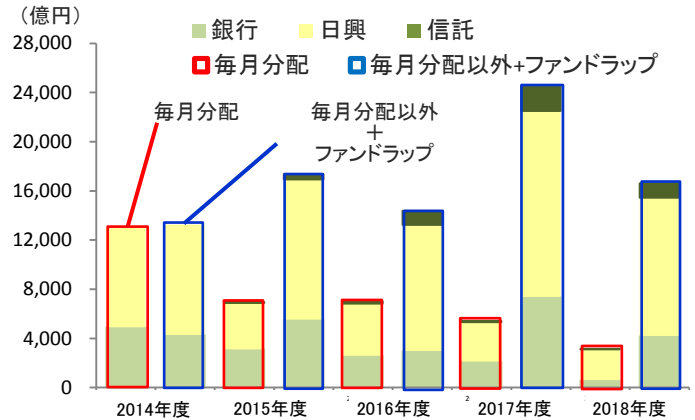
信託

- ✓ 2018年度のグループ会社商品は1商品のみ

投資信託(含むファンドラップ)販売額（毎月分配型とそれ以外の別）

- 毎月分配型の投資信託の販売額は減少し、それ以外の投資信託・ファンドラップの販売額が大きく上回っております。
- 引き続き複利効果（※）を丁寧に説明し、お客さまのニーズにあった提案に努めてまいります。

（※）複利効果：投資資金を運用して得られた利益が更に運用されて増えていく効果



【参考】投資信託に関する管理プロセス

銀行

導入時	随時	・ モーニングスター社による、運用調査体制の充実度や運用管理体制等、主に定性面を含めた評価を実施
運用開始後	通年	・ 取扱い全ファンドの中から選定した主要ファンドについて、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーの定性分析による運用体制等のモニタリングを実施
	年次	・ 特に多くのお客さまにお持ちいただいているファンドについて、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーによる、業界全体における相対評価の視点を踏まえた定量分析を実施 ・ モーニングスターによる、取扱い全ファンドの定量・定性両面から5段階評価を実施し、異常値をチェック

日興

導入時	—	・ 商品選定の独立性を確保すべく、営業推進を担う営業部門と商品部門を分離した態勢を整備
	随時	・ 運用会社から提案された商品案を、ベストプロダクト・ポリシーに基づき採用の可否につき検討。導入にあたっては、運用会社の運用実績、運用能力および運用管理体制、合理的根拠、適合性の検証等を行う
運用開始後	年次	・ パフォーマンスと比較し、過度に分配金を出しているファンドの分配方針と分配金引下げの有無を確認 ・ 運用会社のレポート作成体制のヒアリングを年1回実施し、必要に応じて運用会社へ改善提案を実施

信託

導入時	随時	・ RFI（情報提供依頼書）および運用会社との個別ミーティング、現地調査等を踏まえ、普遍性・本質性・再現性の観点から長期持続性のあるプロダクトを選定
運用開始後	半期	・ モーニングスター社による全取扱い投資信託の定量分析を実施し、運用状況をモニタリング ・ 資産クラスおよびボラティリティから商品のリスクをスコア化し、妥当性を検証の上、変更を検討
	年次	・ モーニングスター社による運用会社インタビュー等を通じた定量・定性分析を実施し、運用状況、運用者等の詳細情報をモニタリング ・ 総合評価にて取扱いステータスやプロダクトレーティングの妥当性を検証

13 投資信託・ファンドラップの運用損益別顧客比率（共通K P I）

【共通KPI】

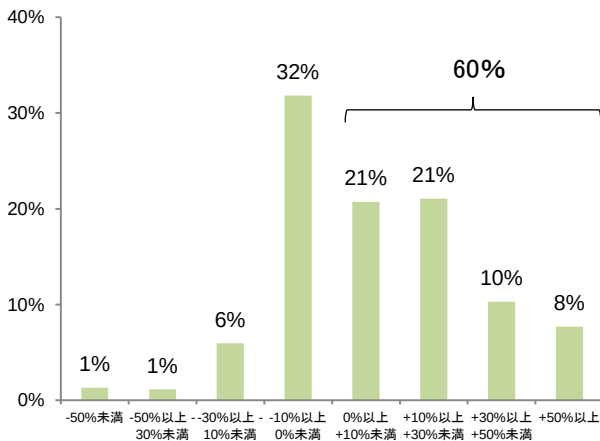
1. 「投資信託の販売会社における比較可能な共通K P I について」（2018/6金融庁公表）の定義に沿い算出
2. 各時点で残高のない解約済の取引は含まず
3. 運用損益比率＝トータルリターン/時価評価額

（共通K P I）投資信託の運用損益別顧客比率

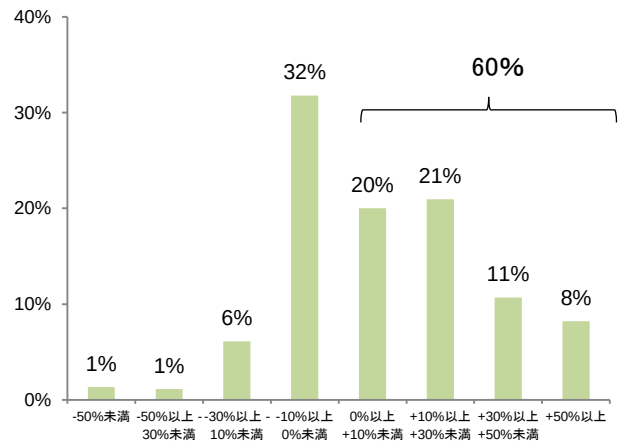
銀行

運用損益がプラスのお客さまは、2018/3末時点で60%、2019/3末時点では60%となっております。

（2018/3月末時点）



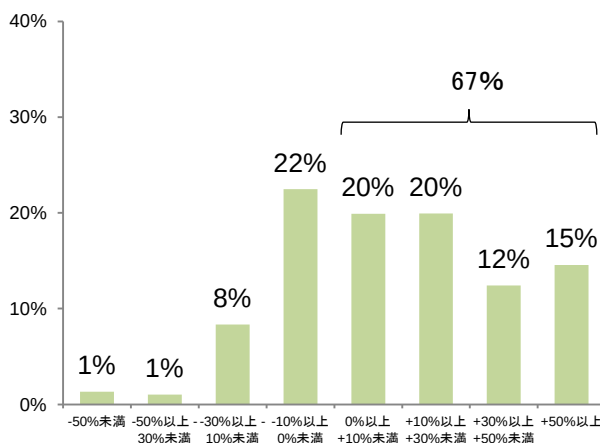
（2019/3月末時点）



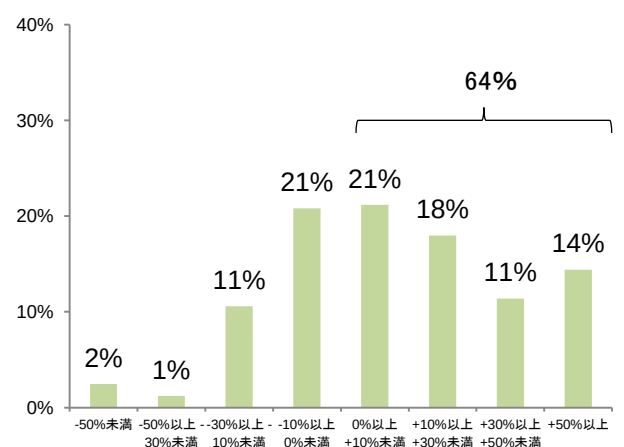
日興

運用損益がプラスのお客さまは、2018/3末時点で67%、2019/3末時点では64%となっております。

（2018/3月末時点）



（2019/3月末時点）

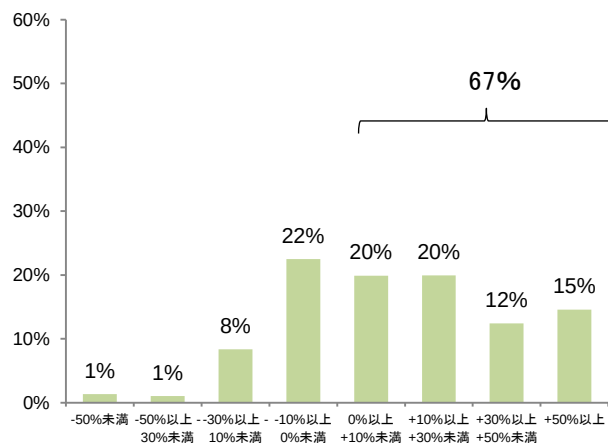


13 投資信託・ファンドラップの運用損益別顧客比率（共通K P I）

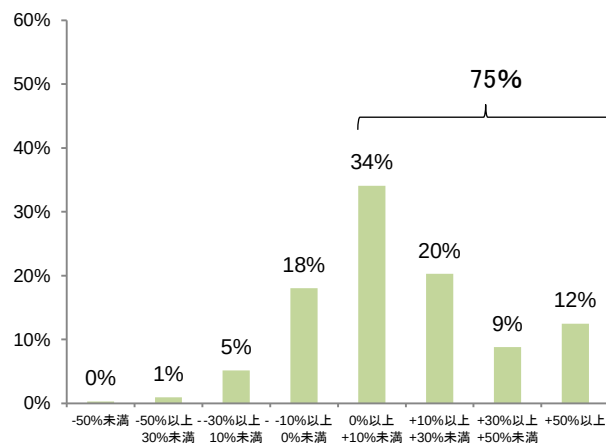
信託

運用損益がプラスのお客さまは、2018/3末時点で67%、2019/3末時点では75%となっております。

（2018/3月末時点）



（2019/3月末時点）

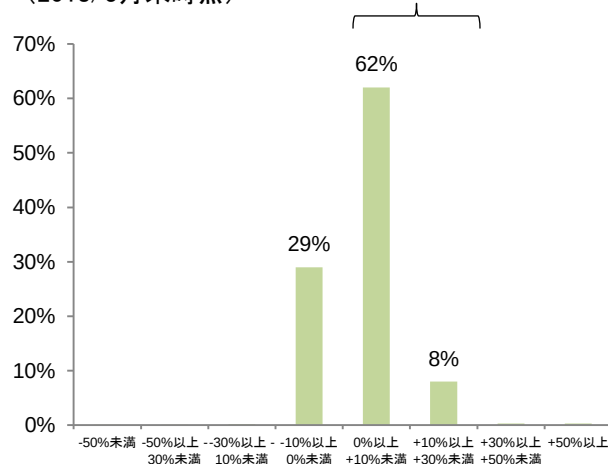


（共通K P I）ファンドラップの運用損益別顧客比率

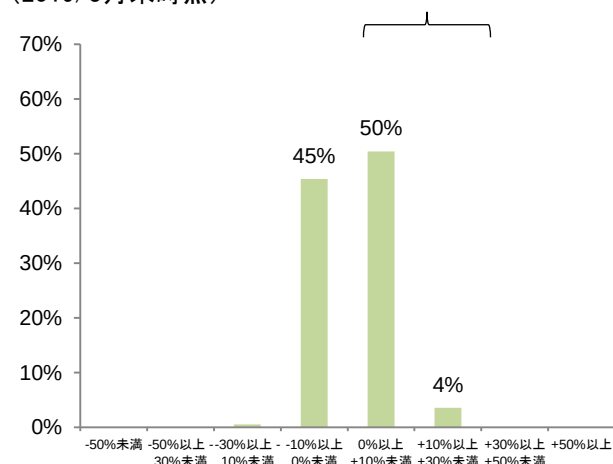
日興

- 主に日本株式の下落の影響を受けたことにより、ファンドラップの運用損益がプラスのお客さまは減少しております。
- 運用損益がプラスのお客さまは、2018/3末時点で70%、2019/3末時点では54%となっております。

（2018/3月末時点）



（2019/3月末時点）



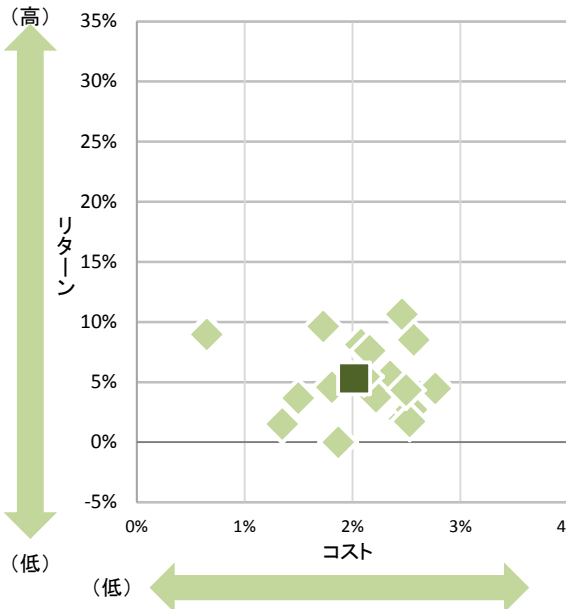
14 投資信託の預り残高上位銘柄のコスト・リターン（共通K P I）

「投資信託の販売会社における比較可能な共通K P Iについて」（2018/6金融庁公表）の定義に沿い、設定5年超ファンドのうち残高上位20銘柄を示しています。

銀行

残高上位20銘柄中、16銘柄でリターンがコストを上回っております。

（2019/3月末時点）



<定義>

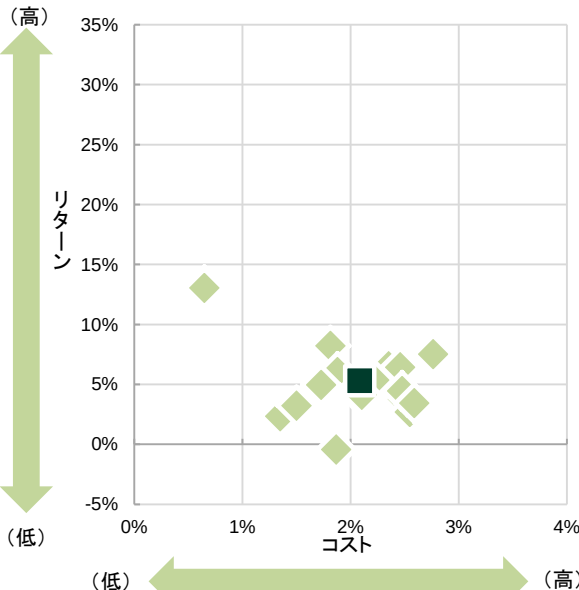
※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ コスト＝販売手数料率／5＋信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	コスト
①三井住友・豪ドル債ファンド	-0.02%	1.87%
②三井住友・225オープン	9.04%	0.65%
③日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	4.45%	2.77%
④フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	5.44%	2.35%
⑤ゴールドマン・サックス米国REITファンドBコース(毎月分配型、為替ヘッジなし)	8.08%	2.08%
⑥GS ハイ・イールド・ボンド・ファンド	3.74%	2.22%
⑦アジア好利回りリート・ファンド	10.62%	2.46%
⑧グローバルREITオープン	5.42%	2.11%
⑨欧州ハイ・イールド・ボンド・ファンド(豪ドルコース)	1.88%	2.48%
⑩グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.49%	1.35%
⑪J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	9.61%	1.73%
⑫グローバル好配当株オープン	4.56%	1.81%
⑬日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	4.43%	2.77%
⑭エス・ビー・日本株オープン225	8.94%	0.65%
⑮LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	2.69%	2.55%
⑯SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(ブラジルリアル)	1.69%	2.53%
⑰ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	7.57%	2.16%
⑱イーストスプリング・インド株式オープン	8.49%	2.57%
⑲タフ・アメリカ(為替ヘッジなし 毎月決算型)	4.31%	2.50%
⑳コーポレート・ボンド・インカム(為替ノーヘッジ型)	3.63%	1.50%
残高加重平均値 (■)	リターン 5.32%	コスト 2.01%

（2018/3月末時点）



<定義>

※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ コスト＝販売手数料率／5＋信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	コスト
①三井住友・豪ドル債ファンド	-0.47%	1.87%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	7.48%	2.77%
③フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	6.48%	2.35%
④GS米国REITファンドBコース(為替ヘッジなし)	4.09%	2.08%
⑤GSハイ・イールド・ボンド・ファンド	5.33%	2.22%
⑥アジア好利回りリート・ファンド	6.39%	2.46%
⑦三井住友・225オープン	13.23%	0.65%
⑧欧州ハイ・イールド・ボンド・ファンド(豪ドルコース)	3.76%	2.48%
⑨グローバルREITオープン	4.11%	2.11%
⑩LMオーストラリア高配当株(毎月分配型)	2.67%	2.55%
⑪グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	2.31%	1.35%
⑫グローバル好配当株オープン	8.18%	1.81%
⑬日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	7.51%	2.77%
⑭エス・ビー・日本株オープン225	13.03%	0.65%
⑮SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(ブラジルリアル)	3.95%	2.53%
⑯インド債券ファンド(毎月分配型)	4.43%	2.48%
⑰エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース	3.42%	2.59%
⑱ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	6.01%	1.88%
⑲コーポレート・ボンド・インカム(為替ノーヘッジ型)	3.20%	1.50%
⑳J-REIT・リサーチ(毎月決算型)	4.93%	1.73%

残高加重平均値 (■)	リターン 5.31%	コスト 2.08%
----------------	---------------	--------------

日興

残高上位20銘柄中、18銘柄でリターンがコストを上回っております。

（2019/3末時点）



<定義>

※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ コスト＝販売手数料率／5＋信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	コスト
①J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	9.61%	1.73%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	4.45%	2.77%
③LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	2.69%	2.55%
④フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	10.18%	2.16%
⑤日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	4.43%	2.77%
⑥新興国社債オープン 円ヘッジ(毎月分配型クラスB)	3.08%	2.26%
⑦アジア好利回りリート・ファンド	10.62%	2.46%
⑧日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	6.49%	2.27%
⑨インド債券ファンド(毎月分配型)	4.27%	2.48%
⑩利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジあり毎月分配型クラスB)	1.34%	2.25%
⑪インデックスファンド225	8.82%	0.78%
⑫日興ジャパンオープン(ジパング)	9.39%	2.51%
⑬利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジなし毎月分配型クラスB)	4.45%	2.25%
⑭日経225ノーロードオープン	8.48%	0.86%
⑮J-REIT・リサーチ・オープン(年2回決算型)	9.65%	1.73%
⑯日興スリートップ(隔月分配型)	3.24%	2.09%
⑰GW7つの卵	5.33%	2.59%
⑱DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.13%	2.20%
⑲日興グローイング・ベンチャーファンド	22.35%	2.70%
⑳日興・CS世界高配当株式ファンド(毎月分配型)	6.30%	1.84%

残高加重平均値 (■)	リターン	コスト
	6.71%	2.20%

（2018/3末時点）



<定義>

※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ コスト＝販売手数料率／5＋信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

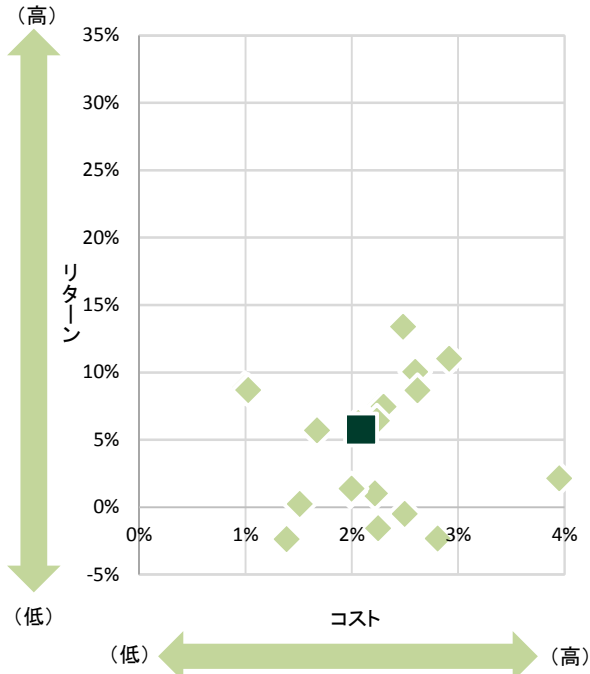
銘柄	リターン	コスト
①LM・オーストラリア高配当株ファンド	2.67%	2.55%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	7.48%	2.77%
③J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	4.93%	1.73%
④フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	7.79%	2.16%
⑤日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	7.51%	2.77%
⑥新興国社債オープン 円ヘッジ(毎月分配型クラスB)	3.46%	2.26%
⑦インド債券ファンド(毎月分配型)	4.43%	2.48%
⑧アジア好利回りリート・ファンド	6.39%	2.46%
⑨日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	5.29%	2.27%
⑩日興ジャパンオープン(ジパング)	16.40%	2.51%
⑪インデックスファンド225	12.96%	0.99%
⑫日興グローイング・ベンチャーファンド	31.49%	2.70%
⑬DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.31%	2.20%
⑭利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジあり毎月分配型クラスB)	2.39%	2.25%
⑮日興スリートップ(隔月分配型)	5.69%	2.09%
⑯日興ビコム・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(トルコリラコース)	-2.47%	2.38%
⑰日興・CS世界高配当株式ファンド(毎月分配型)	9.47%	1.84%
⑱日興アッシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型(ブラジルリアルコース)	4.22%	3.08%
⑲高成長インド・中型株式ファンド	19.94%	2.68%
⑳新光 US-REIT オープン	6.41%	2.30%

残高加重平均値 (■)	リターン	コスト
	7.08%	2.33%

信託

残高上位20銘柄中、10銘柄でリターンがコストを上回っております。

（2019/3月末時点）



<定義>

※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

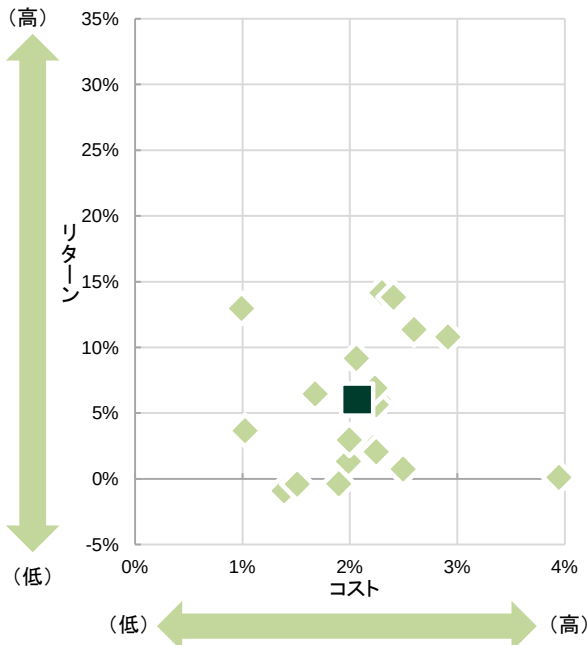
※ コスト＝販売手数料率/5+信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	コスト
①ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	7.57%	2.27%
②インデックスファンド225	8.82%	0.99%
③DWS ブラジル・レアル債券ファンド(毎月分配型)	1.00%	2.22%
④世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	5.68%	1.67%
⑤ドイチェ・インド株式ファンド	10.03%	2.60%
⑥グローバル高配当株式ファンド(毎月分配型)(愛称:軍配)	6.23%	2.06%
⑦インデックスファンド Jリート	8.66%	1.03%
⑧世界のサイフ(毎月分配)	-2.39%	1.39%
⑨GS 米国成長株集中投資ファンド 年4回決算コース	8.64%	2.62%
⑩DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Aコース(為替ヘッジあり)	1.13%	1.99%
⑪ジャナス・セレクション ジャナス・ハイイールド・ファンド クラスA (円建て/為替ヘッジなし/毎月分配型)(愛称:収穫型)	-1.60%	2.25%
⑫フィデリティ・日本成長株・ファンド	7.43%	2.30%
⑬JPM グローバル債券3分散ファンド(毎月決算型)	1.36%	2.00%
⑭UBSオーストラリア債券オープン (毎月分配型)	0.22%	1.51%
⑮プロフェッショナル・ステージ	-0.53%	2.50%
⑯日興AM中国A株ファンド(愛称:黄河)	11.01%	2.92%
⑰JPM アジア・オセアニア高配当株式ファンド(愛称:アジアの風)	6.39%	2.24%
⑱マン・エーエイチエル・円トラスト	2.12%	3.95%
⑲スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)	13.37%	2.48%
⑳ブラックロック・ゴールド・ファンド	-2.34%	2.81%

残高加重平均値 (■)	リターン	コスト
	5.76%	2.09%

（2018/3月末時点）



<定義>

※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ コスト＝販売手数料率/5+信託報酬率

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	コスト
①ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	6.01%	2.27%
②DWS ブラジル・レアル債券ファンド(毎月分配型)	2.39%	2.22%
③インデックスファンド225	12.96%	0.99%
④世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	6.46%	1.68%
⑤ドイチェ・インド株式ファンド	11.34%	2.60%
⑥DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.31%	1.99%
⑦グローバル高配当株式ファンド(毎月決算型)	9.16%	2.06%
⑧インデックスファンド Jリート	3.64%	1.03%
⑨世界のサイフ	-0.92%	1.39%
⑩フィデリティ・日本成長株・ファンド	14.16%	2.30%
⑪ジャナス・ハイイールド(円・ヘッジなし)A 毎月分配型	5.62%	2.25%
⑫JPMグローバル債券3分散ファンド(毎月決算型)	2.94%	2.00%
⑬UBSオーストラリア債券オープン(毎月分配型)	-0.41%	1.51%
⑭プロフェッショナル・ステージ	0.74%	2.50%
⑮マン・エーエイチエル・円トラスト	0.10%	3.95%
⑯日興AM中国A株ファンド	10.78%	2.92%
⑰ジャナス・ハイイールド(円)A	2.04%	2.25%
⑱JPMアジア・オセアニア高配当株式ファンド	6.90%	2.24%
⑲フィデリティ・日本小型株・ファンド	13.80%	2.41%
⑳ジャナス・フレキシブル・インカム(円)A	-0.40%	1.90%

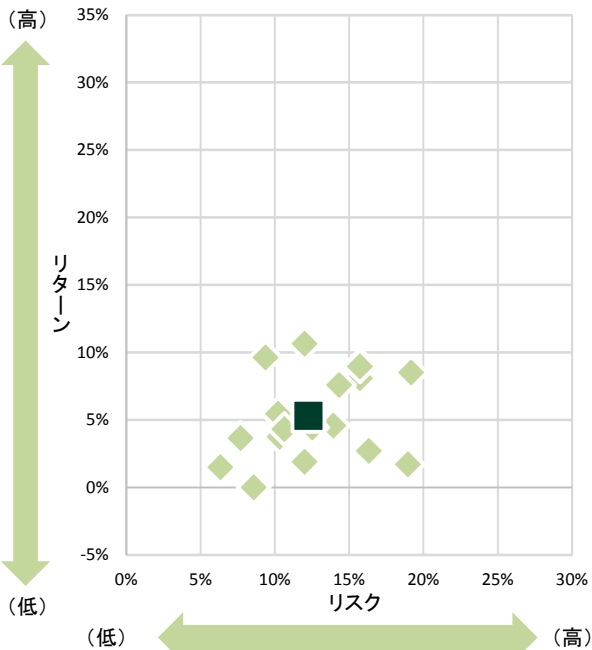
残高加重平均値 (■)	リターン	コスト
	6.02%	2.07%

15 投資信託の預り残高上位銘柄のリスク・リターン（共通K P I）

「投資信託の販売会社における比較可能な共通K P Iについて」（2018/6金融庁公表）の定義に沿い、設定5年超ファンドのうち残高上位20銘柄を示しています。

銀行

(2019/3末時点)



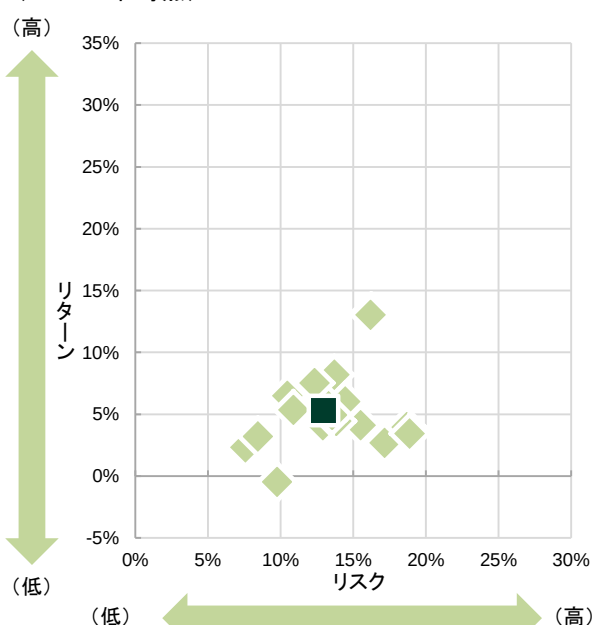
<定義>

- ※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ
- ※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）
- ※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	リスク
①三井住友・豪ドル債ファンド	-0.02%	8.59%
②三井住友・225オープン	9.04%	15.75%
③日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	4.45%	12.46%
④フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	5.44%	10.23%
⑤ゴールドマン・サックス米国REITファンドBコース(毎月分配型、為替ヘッジなし)	8.08%	15.73%
⑥GS ハイ・イールド・ボンド・ファンド	3.74%	10.33%
⑦アジア好利回りリート・ファンド	10.62%	12.00%
⑧グローバルREITオープン	5.42%	12.27%
⑨欧州ハイ・イールド・ボンド・ファンド(豪ドルコース)	1.88%	12.00%
⑩グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.49%	6.34%
⑪J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	9.61%	9.39%
⑫グローバル好配当株オープン	4.56%	13.94%
⑬日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	4.43%	12.52%
⑭エス・ビー・日本株オープン225	8.94%	15.73%
⑮LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	2.69%	16.35%
⑯SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(ブラジルリアル)	1.69%	18.96%
⑰ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	7.57%	14.34%
⑱イーストスプリング・インド株式オープン	8.49%	19.19%
⑲タフ・アメリカ(為替ヘッジなし 毎月決算型)	4.31%	10.65%
⑳コーポレート・ボンド・インカム(為替ノーヘッジ型)	3.63%	7.71%

残高加重平均値 (■)	リターン	リスク
	5.32%	12.27%

(2018/3末時点)



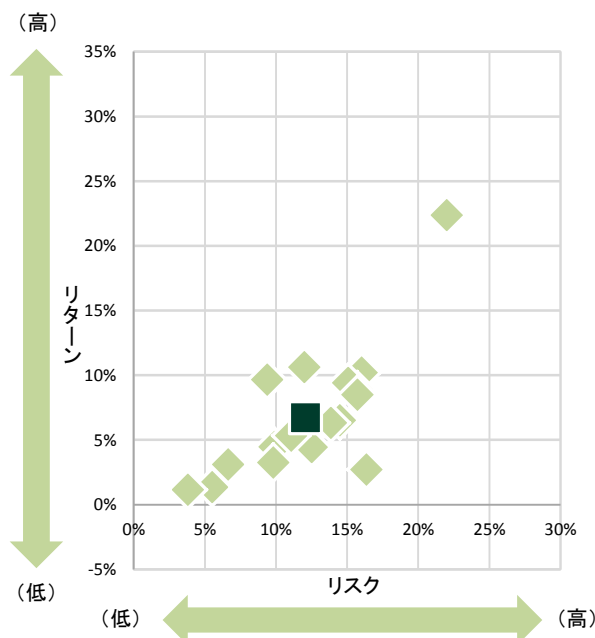
<定義>

- ※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ
- ※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）
- ※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	リスク
①三井住友・豪ドル債ファンド	-0.47%	9.77%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	7.48%	12.28%
③フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	6.48%	10.48%
④ゴールドマン・サックス米国REITファンドBコース(為替ヘッジなし)	4.09%	15.52%
⑤GSハイ・イールド・ボンド・ファンド	5.33%	10.89%
⑥アジア好利回りリート・ファンド	6.39%	13.85%
⑦三井住友・225オープン	13.23%	16.24%
⑧欧州ハイ・イールド・ボンド・ファンド(豪ドルコース)	3.76%	12.91%
⑨グローバルREITオープン	4.11%	12.91%
⑩LMオーストラリア高配当株(毎月分配型)	2.67%	17.17%
⑪グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	2.31%	7.59%
⑫グローバル好配当株オープン	8.18%	13.70%
⑬日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	7.51%	12.33%
⑭エス・ビー・日本株オープン225	13.03%	16.20%
⑮SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(ブラジルリアル)	3.95%	18.68%
⑯インド債券ファンド(毎月分配型)	4.43%	13.83%
⑰エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース	3.42%	18.87%
⑱ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	6.01%	14.45%
⑲コーポレート・ボンド・インカム(為替ノーヘッジ型)	3.20%	8.44%
⑳J-REIT・リサーチ(毎月決算型)	4.93%	13.54%

残高加重平均値 (■)	リターン	リスク
	5.31%	12.94%

(2019/3末時点)



<定義>

※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

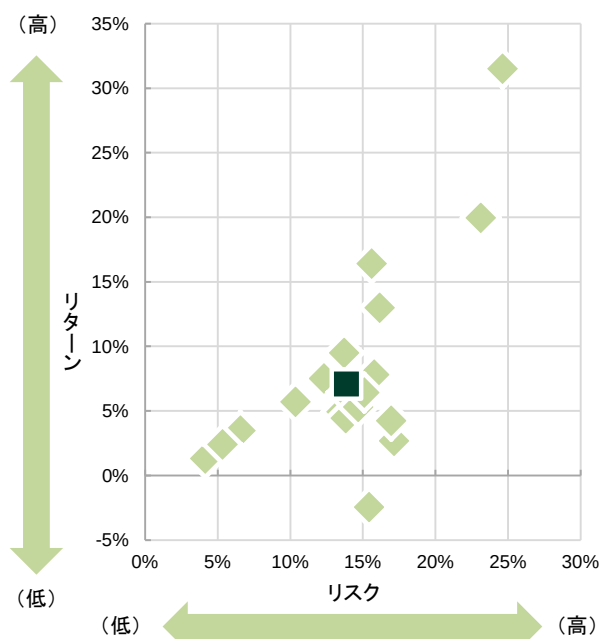
※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	リスク
①J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	9.61%	9.39%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	4.45%	12.46%
③LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	2.69%	16.35%
④フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	10.18%	16.02%
⑤日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	4.43%	12.52%
⑥新興国社債オープン 円ヘッジ(毎月分配型クラスB)	3.08%	6.65%
⑦アジア好利回りリート・ファンド	10.62%	12.00%
⑧日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	6.49%	14.48%
⑨インド債券ファンド(毎月分配型)	4.27%	9.88%
⑩利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジあり毎月分配型クラスB)	1.34%	5.51%
⑪インデックスファンド225	8.82%	15.70%
⑫日興ジャパンオープン(ジパング)	9.39%	15.09%
⑬利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジなし毎月分配型クラスB)	4.45%	9.91%
⑭日経225ノーロードオープン	8.48%	15.72%
⑮J-REIT・リサーチ・オープン(年2回決算型)	9.65%	9.38%
⑯日興スリートップ(隔月分配型)	3.24%	9.82%
⑰GW7つの卵	5.33%	11.07%
⑱DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.13%	3.80%
⑲日興グローイング・ベンチャーファンド	22.35%	22.00%
⑳日興・CS世界高配当株式ファンド(毎月分配型)	6.30%	13.86%

残高加重平均値 (■)	リターン	リスク
	6.71%	12.07%

(2018/3末時点)



<定義>

※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

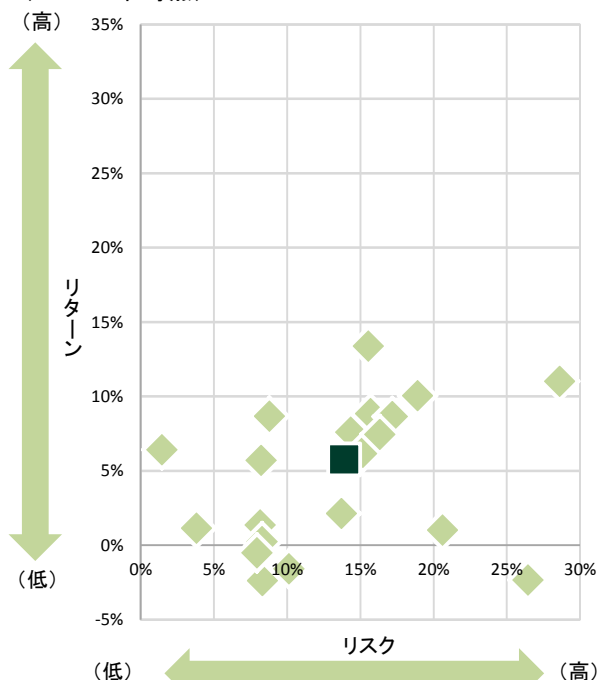
銘柄	リターン	リスク
①LM・オーストラリア高配当株ファンド	2.67%	17.17%
②日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)	7.48%	12.28%
③J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	4.93%	13.54%
④フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	7.79%	15.80%
⑤日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)	7.51%	12.33%
⑥新興国社債オープン 円ヘッジ(毎月分配型クラスB)	3.46%	6.59%
⑦インド債券ファンド(毎月分配型)	4.43%	13.83%
⑧アジア好利回りリート・ファンド	6.39%	13.85%
⑨日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	5.29%	14.69%
⑩日興ジャパンオープン(ジパング)	16.40%	15.62%
⑪インデックスファンド225	12.96%	16.18%
⑫日興グローイング・ベンチャーファンド	31.49%	24.64%
⑬DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.31%	4.15%
⑭利回り債券3分法ファンド(円建ヘッジあり毎月分配型クラスB)	2.39%	5.35%
⑮日興スリートップ(隔月分配型)	5.69%	10.36%
⑯日興ビムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(トルコリラコース)	-2.47%	15.44%
⑰日興・CS世界高配当株式ファンド(毎月分配型)	9.47%	13.72%
⑱日興アッシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型(ブラジルレアルコース)	4.22%	16.97%
⑲高成長インド・中型株式ファンド	19.94%	23.13%
⑳新光 US-REIT オープン	6.41%	15.12%

残高加重平均値 (■)	リターン	リスク
	7.08%	13.87%

15 投資信託の預り残高上位銘柄のリスク・リターン（共通K P I）

信託

(2019/3末時点)



<定義>

※ 2019年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	リスク
①ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	7.57%	14.34%
②インデックスファンド225	8.82%	15.70%
③DWS ブラジル・リアル債券ファンド(毎月分配型)	1.00%	20.60%
④世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	5.68%	8.22%
⑤ドイチェ・インド株式ファンド	10.03%	18.90%
⑥グローバル高配当株式ファンド(毎月分配型)(愛称:軍配)	6.23%	15.18%
⑦インデックスファンド Jリート	8.66%	8.79%
⑧世界のサイフ(毎月分配)	-2.39%	8.32%
⑨GS 米国成長株集中投資ファンド 年4回決算コース	8.64%	17.19%
⑩DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型) Aコース(為替ヘッジあり)	1.13%	3.81%
⑪ジャナス・セレクション ジャナス・ハイイールド・ファンド クラスA (円建て/為替ヘッジなし/毎月分配型)(愛称:収穫型)	-1.60%	10.13%
⑫フィデリティ・日本成長株・ファンド	7.43%	16.32%
⑬JPM グローバル債券3分散ファンド(毎月決算型)	1.36%	8.16%
⑭UBSオーストラリア債券オープン (毎月分配型)	0.22%	8.29%
⑮プロフェッショナル・ステージ	-0.53%	7.93%
⑯日興AM中国A株ファンド(愛称:黄河)	11.01%	28.60%
⑰JPM アジア・オセアニア高配当株式ファンド(愛称:アジアの風)	6.39%	1.44%
⑱マン・エーエイチエル・円トラスト	2.12%	13.71%
⑲スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)	13.37%	15.54%
⑳ブラックロック・ゴールド・ファンド	-2.34%	26.45%

残高加重平均値
(■)

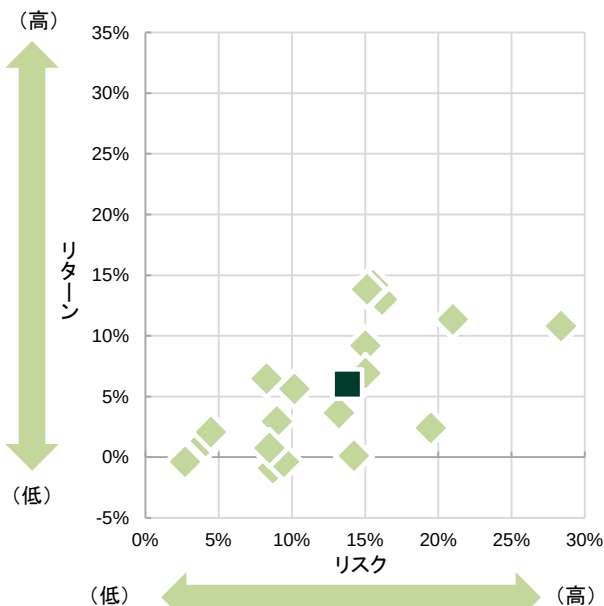
リターン

5.76%

リスク

13.90%

(2018/3末時点)



<定義>

※ 2018年3月末時点で、設定期間5年超のファンドのみ

※ リスク＝過去5年間の月次リターンの標準偏差（年率換算）

※ リターン＝過去5年間のトータルリターン（月次ベースを年率換算）

銘柄	リターン	リスク
①ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	6.01%	14.45%
②DWS ブラジル・リアル債券ファンド(毎月分配型)	2.39%	19.49%
③インデックスファンド225	12.96%	16.18%
④世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	6.46%	8.30%
⑤ドイチェ・インド株式ファンド	11.34%	21.02%
⑥DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース(為替ヘッジあり)	1.31%	4.15%
⑦グローバル高配当株式ファンド(毎月決算型)	9.16%	15.04%
⑧インデックスファンド Jリート	3.64%	13.23%
⑨世界のサイフ	-0.92%	8.73%
⑩フィデリティ・日本成長株・ファンド	14.16%	15.57%
⑪ジャナス・ハイイールド(円・ヘッジなし)A 毎月分配型	5.62%	10.18%
⑫JPM グローバル債券3分散ファンド(毎月決算型)	2.94%	8.99%
⑬UBSオーストラリア債券オープン(毎月分配型)	-0.41%	9.47%
⑭プロフェッショナル・ステージ	0.74%	8.49%
⑮マン・エーエイチエル・円トラスト	0.10%	14.25%
⑯日興AM中国A株ファンド	10.78%	28.39%
⑰ジャナス・ハイイールド(円)A	2.04%	4.49%
⑱JPMアジア・オセアニア高配当株式ファンド	6.90%	15.04%
⑲フィデリティ・日本小型株・ファンド	13.80%	15.16%
⑳ジャナス・フレキシブル・インカム(円)A	-0.40%	2.73%

残高加重平均値
(■)

リターン

6.02%

リスク

13.78%

【参考】投資信託販売商品の变化(含むファンドラップ)

銀行

日興

信託

- ・「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確に対応することにより、投資信託の販売額ランキングはここ6年間で変化しております。
- ・銀行・日興ともにファンドラップやバランスファンドが、上位にランクインしております。

「グループ」：運用会社が三井住友DSに○印 「バランス」：バランスファンド・ファンドラップに○印

銀行

<2012年度>

順位	ファンド名	グループ	バランス
1	エマージング・プラス・成長戦略コース		
2	エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース		
3	グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド		
4	SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(ブラジルリアル)	○	
5	GSハイ・イールド・ボンド・ファンド		
6	SMBC・日興ニューワールド債券ファンド(円)	○	
7	スマート・ストラテジー・ファンド	○	
8	グローバルCBオープン・円コース	○	
9	エマージング・プラス・円戦略コース		
10	グローバルCBオープン・高金利通貨コース	○	

<2018年度>

順位	ファンド名	グループ	バランス
1	SMBC・アムンディプロテクトF米ドルステップ201803		○
2	三井住友225オープン	○	
3	ダブル・ブレイン		○
4	ファンドラップ		○
5	SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチファンド		○
6	ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	○	○
7	ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	○	○
8	JPMベスト・インカム(毎月決算型)		○
9	アジア好利回りリート・ファンド	○	
10	マイスターズ・コレクション(資産成長型)	○	○

日興

順位	ファンド名	グループ	バランス
1	日興グラビティアメリカズ:ビバアメリカズ		
2	日興・新経済成長国エクイティ・ファンド	○	
3	日興JFアジア・ディスカバリー・ファンド		
4	日興UBS米国成長株式リスクコントロール		
5	フィデリティ・USリートB ヘッジなし		
6	日興ビムコハイインカム毎月 トルコ		
7	日興DWSグローバル金融機関パッケージクラスB		
8	日興グラビティ・ファンド		
9	J-REIT・リサーチ(毎月決算型)		
10	日興BNYメロン利回り債券3分法ファンド毎月分配型(ヘッジあり)		

順位	ファンド名	グループ	バランス
1	ファンドラップ		○
2	フューチャー・バイオテック	○	
3	GSグローバルビッグデータ投資戦略(ヘッジ無)		
4	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド		
5	J-REIT・リサーチ(毎月決算型)		
6	日経225ノーロードオープン		
7	日興レジェンド・イーグル/毎月決算コース		
8	利回り債券3分法ファンド毎月(ヘッジなしB)		
9	JPMザ・ジャパン(年4回決算型)		
10	グローバル・フィンテック株式ファンド		

信託

順位	ファンド名	グループ	バランス
1	レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ(ケイマン)トラ ストー償還時目標設定型ファンド1903 米ドル建て受益 証券		
2	レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ(ケイマン)トラ ストー償還時目標設定型ファンド1809 米ドル建て受益 証券		
3	ジャナス・セレクション ジャナス・フォーティ・ファンド(米ド ル)A		
4	ビムコ・バーミューダ・トラスト ビムコ ショート・ターム ス トラテジー 米ドルクラス		
5	プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド 米ド ル建て受益証券		
6	プレミアム・ファンズ ウェルズ・コアポートフォリオ アドバ ンス型 米ドル建て受益証券		○
7	ジャナス・セレクション ジャナス・フレキシブル・インカム・ ファンド(米ドル)A		
8	レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ(ケイマン)トラ ストー償還時目標設定型ファンド1903~愛称:キャッチ・ ザ・ピーク 豪ドル建て受益証券		
9	プレミアム・ファンズ ウェルズ・コアポートフォリオ コンサ パティブ型(米ドル建て)		○
10	プレミアム・ファンズ ウェルズ・コアポートフォリオ グロー ス型(米ドル建て)		○

※2012年度時点では、信託はグループ会社で
なかったことから、記載しておりません

【参考】SMBCグループ リテール事業部門における金融商品の手数料に関する考え方

- 金融商品の販売に当たり、金融商品の対価とは別に手数料をいただく場合があります。また、保険商品のように、お客さまにご負担いただく費用とは別に、金融商品の提供会社から販売代理店手数料等を受け取る場合があります。
- こうした手数料は、例えば、金融商品のご提供にあたって必要となる、商品の開発・選定、ご提案資料・各種ご報告書・相場情報資料等の作成・送付、アフターフォローまで含めたコンサルティングサービスのご提供、お取引の執行に係る事務、サービス品質の向上に向けた研修、お客さまに安心してご利用いただけるシステムや店舗等のインフラ整備といった、物件費・人件費等を総合的に勘案して設定しております。
- 各種合理化・効率化によるコスト抑制に努めつつ、ご負担いただく手数料対比、お客さまに最高の満足をご提供できるよう、お客さまへのサービス品質の向上に努めてまいります。
- こうした手数料に関しましては、契約締結前交付書面や目論見書等でご確認いただけるように努めており、金融商品のご提供に際して分かりやすくご説明を行うよう努めてまいります。

【参考】手数料に関する説明

銀行

投資信託購入時の手数料は、手数料率だけでなく、購入予定額に応じた手数料概算を実額で明示しております。

<重要事項確認書（国内投資信託）>

本ファンドの購入・保有・換金に際しては、以下の手数料等が差し引かれます。よって、お申込金額全額が当該投資信託の購入金額となるものではありません。

・ 購入時……	お申込手数料		
	手数料率(税込)	:	%
	概算手数料(税込)(※)	:	円
・ 保有期間中…	信託報酬	:	年 % (税込)
・ 換金時……	信託財産留保額	:	%

信託

投資信託購入時の手数料は、保有期間が長期に及ぶほど1年あたりの負担率は逦減していくことを説明しております。

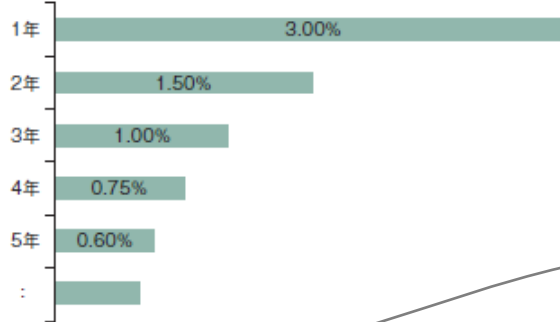
<重要事項確認書（投資信託）>

【投資信託】購入時手数料(お申込手数料)に関するご説明

■投資信託のお申込手数料はご購入にあたってご負担いただくものですが、保有期間が長期に及ぶほど、1年あたりの負担率はしだいに減っていきます。

例えば、お申込手数料が3.00% (税抜) の場合

【保有期間】 【1年あたりのご負担率(税抜)】

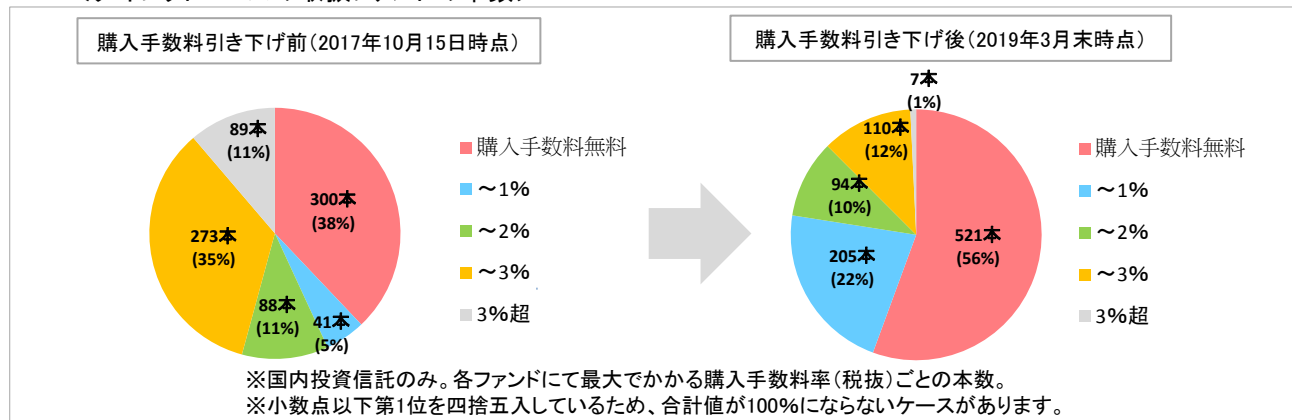


日興

＜投資信託手数料の二段階化＞

提供サービスに見合った手数料体系として、営業員による商品説明等のコストが発生しないダイレクトコースの国内投信購入手数料を2017年10月より一律引き下げ、お客さま向けに公表しております。

＜ダイレクトコースの取扱ファンドの本数＞

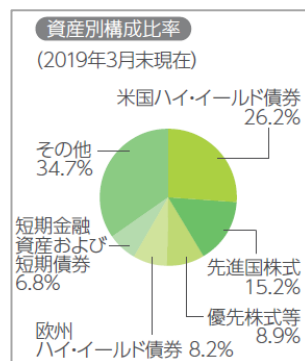
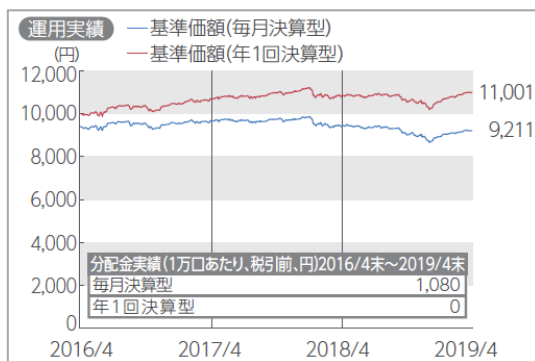


【参考】分かりやすい情報提供

＜ファンドラインアップ＞

銀行

第三者評価機関の評価等も用い選定した主要ファンドについて、運用実績や構成比率等の代表的な商品情報を明示し、分かりやすい説明に努めております。

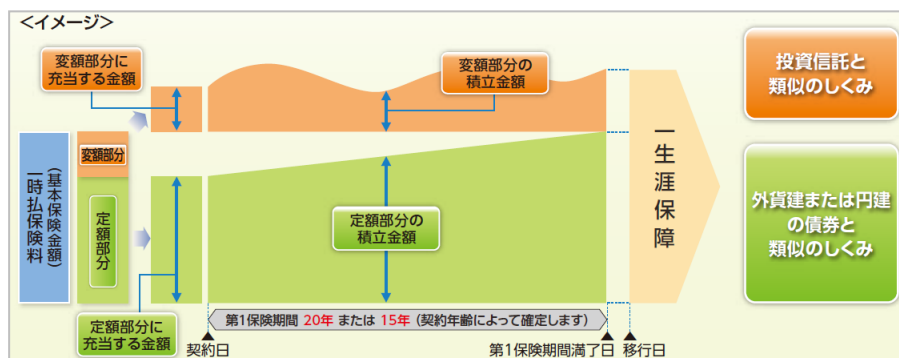


＜生命保険の「パッケージ商品」＞

銀行

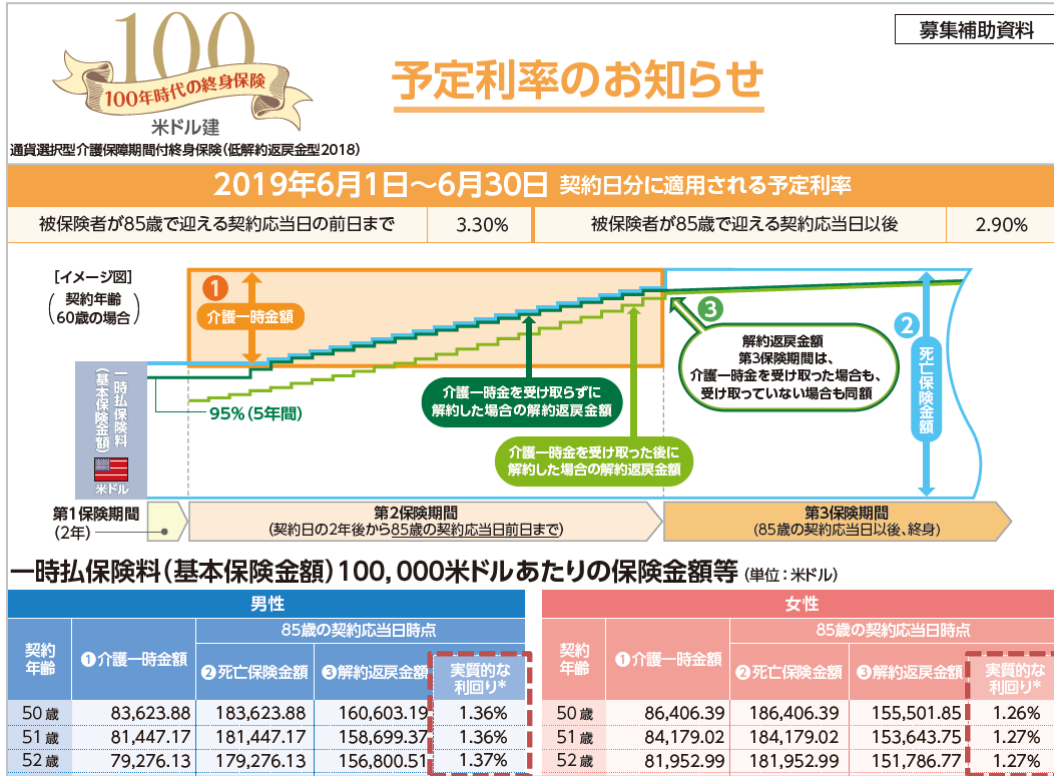
日興

複数の金融商品やサービスの組み合わせにより組成された生命保険の商品内容について、グラフを用い、分かりやすい説明に努めております。



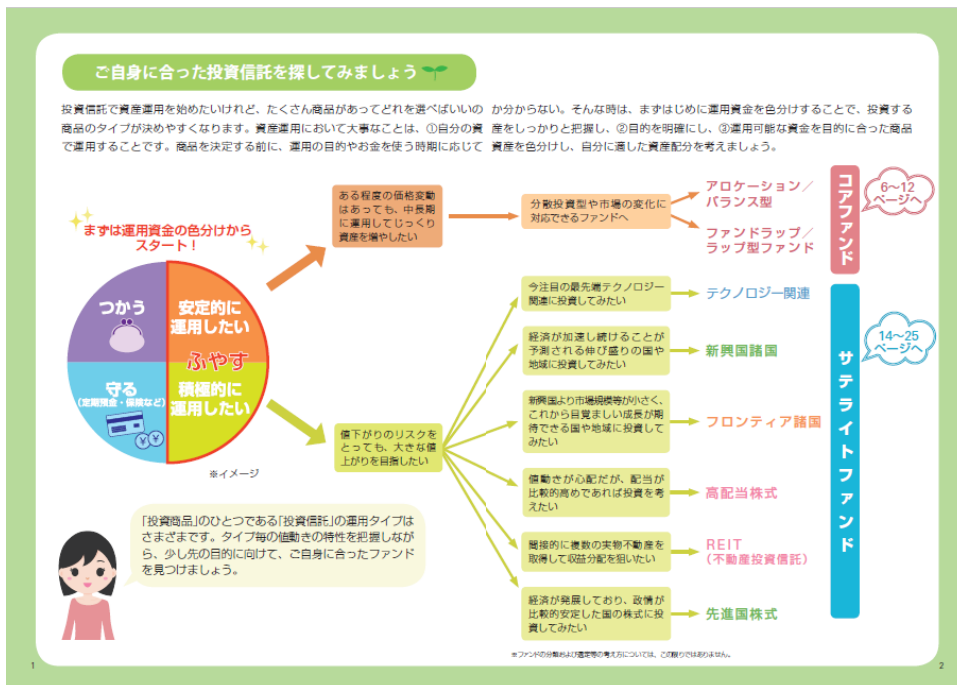
銀行

予定利率や積立利率について、分かり易い図で示すと共に、実質的な利回りを示すことで、お客さまに保険の内容をよりご理解いただけるように努めております。



日興

お客さまの資産運用の目的に適した商品選定をサポートするために、ファンドをその特徴に応じて分類して紹介しております。



<あなたの投資、満足していますか？>

信託

長期投資で成功体験を得るために、投資スタイル等の偏りをなくすることが効果的であることを図やデータを使って説明しています。



(図表7)米国株ファンドでも、サイズ・スタイルによりパフォーマンスに差

順位	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1	小型グロース 40.8%	大型バリュー 10.2%	大型グロース 3.6%	小型バリュー 25.8%	大型グロース 27.8%	大型グロース -2.1%
2	小型バリュー 36.2%	大型グロース 10.1%	中型グロース -1.1%	中型バリュー 17.6%	中型グロース 24.5%	小型グロース -5.9%
3	中型バリュー 34.9%	中型バリュー 9.4%	小型グロース -2.5%	大型バリュー 14.6%	小型グロース 21.7%	中型グロース -6.9%
4	中型グロース 34.9%	中型グロース 6.8%	大型バリュー -4.1%	小型グロース 11.0%	大型バリュー 16.1%	大型バリュー -8.5%
5	大型グロース 33.8%	小型バリュー 3.3%	中型バリュー -5.1%	中型グロース 5.7%	中型バリュー 13.5%	中型バリュー -12.8%
6	大型バリュー 31.2%	小型グロース 2.5%	小型バリュー -6.9%	大型グロース 3.2%	小型バリュー 9.1%	小型バリュー -15.4%

※2013年～2018年、各1年間のトータルリターン
 ※米国籍オープン・エンド・ファンド
 ※スタイルは米国モーニングスター・カテゴリーに基づく
 ※米ドル建て、管理報酬等控除後
 出所：モーニングスター作成

【参考】 お客さま向けセミナー

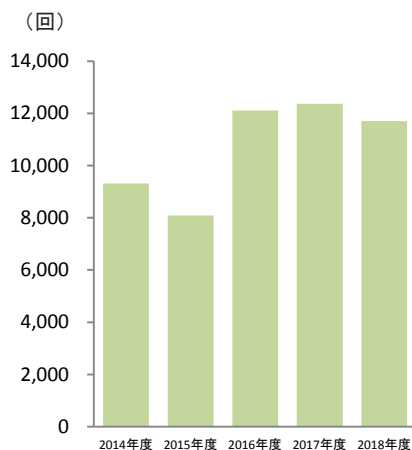
銀行

日興

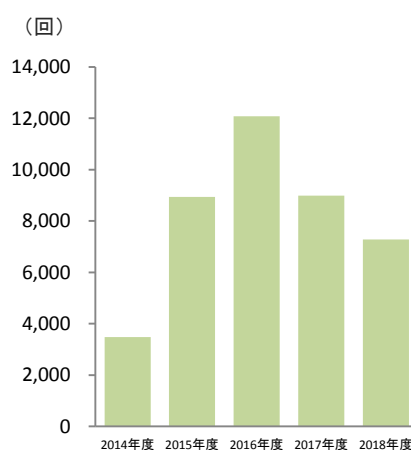
信託

お客さまや商品の特性・リスクを踏まえ、資産運用等に関する情報を提供するため、セミナーを積極的に実施しております。

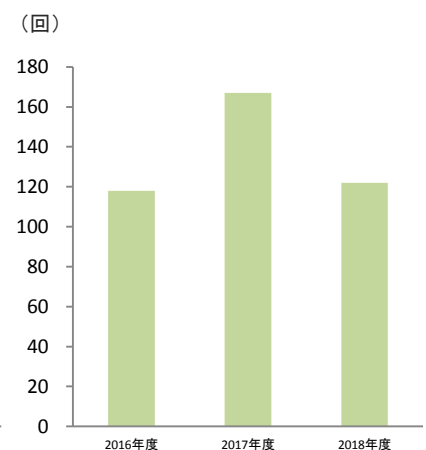
銀行



日興



信託



取組方針3 お客さま本位のアフターサービスの充実

お客さまに長期的に安心して運用商品をお持ちいただけるよう、きめ細かいアフターサービスに努めてまいります。

- ✓ 運用商品をご購入のお客さまに対し、必要に応じ、販売時の担当者による商品説明が分かりやすく、十分に行われていたかを確認し、お客さまの不安・不満の解消に努めてまいります。
- ✓ 投資信託や外貨預金等をお持ちのお客さまに対しては、書面等による定期的な情報提供を行い、さらに、必要に応じ各営業店の担当者による面談・ご連絡を含めた、きめ細かいアフターサービスに努めてまいります。
- ✓ 特に、政治イベントや地政学リスク等、市場動向が大きく変動した場合は、相場見通しや商品の運用状況をはじめ、お客さまの不安解消、投資判断に必要な情報をご提供できるように努めるなど、タイムリーかつ丁寧なアフターサービスを行ってまいります。
- ✓ 有人対応だけでなく、LINEや電子メールといった様々なチャネルでも随時情報を提供する等、アクセスチャネルの拡充により、利便性向上に努めてまいります。

【参考】アフターサービスの概要

銀行

日興

信託

銀行

- ・ 投資信託等の運用商品を保有いただいているお客さまには、原則、担当者を配し、お問い合わせ等に対応しております。
- ・ 銀行から日興へ紹介したお客さまが、日興で運用商品をご購入された場合には、アンケートや、一部お電話にて、日興の担当者の対応についてお客さま本位の観点から確認をさせて頂いております。
- ・ 運用商品を保有されているお客さまに対し、お電話による運用状況の定期的なフォローや、スマホアプリ（SMB Cマネーコンサルタント）を通じた情報提供・運用相談の受付を行っております。
- ・ また、一般的に長期の契約となる生命保険については、ご契約内容の確認など定期的なアフターサービスに努めて参ります。

日興

- ・ 相場急落時等の顧客フォローが必要な事態が発生した際にはフォローを徹底しております。フォローの際はレポート等を使用し丁寧に説明しております。フォロー状況を本社から確認できる社内システムを活用し、効率的な支援態勢を構築しております。
- ・ 「基準価額通知メール」、「公開買付お知らせメール」等、お客さまの情報提供ニーズに合わせたメール登録サービスを提供しています。

信託

- ・ プレスティアコールセンターでは、運用商品を保有されているお客さまへのフォローを含め24時間365日ご要望にお応えしております。
- ・ プレスティアゴールドのお客さまには専任の担当者がお客さまの資産運用に関するお問い合わせへのご対応や、保有資産の状況に関するご案内など、アフターサービスに努めております。
- ・ 相場急変時には、市況に関するレポート類の当行ホームページへの掲載、Eメールによる配信を行う他、担当者による電話でのご連絡や往訪を通じた情報提供体制の強化に努めております。

取組方針4 お客さま本位の業績評価体系の整備

お客さま本位の営業活動を的確に行うことを促すため、業績評価体系を整備してまいります。

- ✓ お預かりする資産の残高や中長期分散投資に繋がる運用商品の販売等に重点を置き、長期的な視野に立った上で業績評価体系を整備してまいります。
- ✓ 短期的成果ではなく、長期的な視野に立った上でお客さまとのWIN-WINの関係を目指した社内の体制整備に努めてまいります。

【参考】業績評価体系のポイント

銀行

日興

信託

銀行

- ・ 運用経験のないお客さまを含め、「資産を守りたい」「これから資産を形成していきたい」というニーズをお持ちのお客さまに重点を置いている銀行の業績評価体系のポイントは以下のとおりです。
 - ① 「コンプライアンス」を大前提とし、「お客さま本位」を軸とする評価
 - ② 販売や収益ではなく、「お客さま本位」がより反映されやすい「お預かりする資産」の残高に重点
 - ③ グループ一体となりお客さまに向き合う為、お預かりする資産は「グループ各社の合算」で評価
- ・ 担当者が真にお客さまのためだけを考えてコンサルティングに取り組めるよう、担当者個人に運用収益や販売額の計数目標は割っておりません。

日興

- ・ 高度かつ多様な運用ニーズにお応えするのみならず、ソリューションビジネスの実践を重視しております。
- ・ 「コンプライアンス」を大前提とした「お客さま本位の業務運営」を追求し、それらを前提とした業績向上という優先順位に基づく評価を行っております。
- ・ 「お客さま本位の業務運営」は、主に、取引状況・適合性・顧客収支やお客さまへのフォロー状況、お客さまの声（NPS®評価）で評価しております。
- ・ 業績評価については、単年度手数料等の実績に偏ることなく、持続的成長への取り組みとして、お預かり資産の拡大状況やコンサルティングのプロセスを評価しております。

信託

- ・ 信託の業績評価体系のポイントは以下のとおりです。
 - ① 担当者一人ひとりに対する評価と、「拠点」に対する評価に同一のウェイト
 - ② 外貨を軸とした中長期分散投資の観点から、「お客さまからお預かりする資産の残高」を重視
 - ③ 商品の特性ごとに一定料率で評価することにより、個別商品の手数料率によらない販売体制を確保
 - ④ ノーロード投資信託やスイッチング取引など、お客さまから手数料をいただかない商品・取引についても、中長期の資産形成及び運用資産のメンテナンスの観点から一定料率で評価

取組方針5 コンサルティング力向上に向けた取組み

お客さまの幅広いニーズに最適なお提案ができるよう、コンサルティング力の継続的な向上を図ってまいります。

- ✓ ロールプレイング等の研修を通じて、商品や投資環境に関するベースの知識とお客さま向け説明等、実践スキルの強化を図り、金融のプロフェッショナルとして専門性の高度化を図ってまいります。
- ✓ タブレット端末の活用や、手続書面の簡素化等により、コンサルティングの高度化とお客さまの利便性向上に努めてまいります。
- ✓ なお、お客さまを起点としたサービス・満足度向上に向けては、お客さまの声やお客さまからの評価に真摯に向き合い、向上に努めてまいります。

16 F P 資格保有比率

銀行

日興

信託

お客さまの幅広いニーズに対する提案力を向上するために、必要な知識を習得し、実践で活用出来るよう、F P 2級以上（含むC F P・A F P）の資格の取得を推進しております。

F P 2級以上（含むC F P・A F P）の資格保有比率 ＜銀行+日興+信託＞	管理職	外訪担当者
	86%	72%

【参考】NPS®（Net Promoter Score®）調査の導入

銀行

日興

信託

銀行

- NPS®調査の結果は各営業店に還元しており、各担当者がその内容を確認しております。お客さまの忌憚のないご意見を踏まえ、お客さま本位の提案ができるよう努めております。
- NPS®調査の結果については、拠点の業績評価に反映することで、より一層のお客さま本位の取組みができるように努めております。

日興

- NPS®スコアや頂いたコメントを分析し、適切な商品・サービス提供、アフターフォローができるよう当社の施策等に反映させてまいります。
- NPS®調査結果は営業店の評価として取り入れており、コンサルティング力向上と共に、お客さま本位の業務運営ができるよう努めております。

信託

NPS®調査結果は、各営業店に還元し、担当者に関するお客さまの評価を客観的に見つめなおす機会として活用するとともに、直接お客さまにヒアリングをすることで、これまで気づかなかったお客さまのニーズを知る機会として活用しております。

＜NPS®調査とは＞

- 「他者への推奨意向」を測ることで、お客さまのロイヤルティを測定する指標。
- 「家族や友人に薦める可能性はどのくらいありますか？」という質問に対して0～10点の11段階で回答したデータを推奨者（9～10点）、中立者（7～8点）、批判者（0～6点）の3グループに分類
- 推奨者の割合から批判者の割合を差し引いた数値がNPS®

※NPS®は、ベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、サトメトリックス・システムズの登録商標です。

【参考】サービス・満足度向上に向けた取組み

グループ

- ・ 信用格付業を営む株式会社格付け投資情報センター（R&I）が公表した「R&I顧客本位の投信販売会社評価（以下、「R&I評価」）」に於いて「三井住友フィナンシャルグループ」として、2018年12月に「S評価」を取得しました。
- ・ 「外部有識者も交え経営陣が積極的に関与し、三井住友フィナンシャルグループ全体で顧客本位の投信販売（Fiduciary Duty：FD）に取り組んでいる姿勢がうかがえる」など高い評価をいただいております。

R&I 顧客本位の
投信販売会社評価

銀行

- ・ 「営業店モニター調査（店頭でのお客さま対応力調査）」や「お客さま満足度調査」の結果を踏まえ、サービス・満足度向上に努めております。
- ・ なお、顧客満足度に関する国際的な調査専門機関「J. D. パワー」が、日本の金融機関を対象に行った個人向け投資サービスに関する満足度調査では、3年連続でNo.1(※1)を受賞しております。
- ・ R&I評価に於いて「S評価」を取得しました。
- ・ 米国COPC社「COPC®CX規格」認証取得（2014-2018年）
- ・ HDI-Japan (※2) が提供するサポートサービスの格付けである「問合せ窓口」「WEBサポート」調査において、3年連続で国内最高評価となる三つ星を取得しました。なお、「問合せ窓口」の受賞は、2018年度の銀行業界では当行のみとなります。

J.D. パワー
個人資産運用
顧客満足度調査

日興

- ・ HDI-Japan (※2) が提供するサポートサービスの格付けである「問合せ窓口」「WEBサポート」「チャットサポート」調査において最高評価となる三つ星を取得しました。
「問合せ窓口」13年連続、「Webサポート」8年連続、「チャットサポート」国内初
- ・ 公益社団法人 日本電信電話ユーザ協会「電話応対コンクール」14年連続全国大会入賞（2005-2018年）準優勝（2016年） 優秀賞（2017・2018年）
- ・ 米国COPC社「COPC®CX規格」認証取得（2008-2018年）

【問合せ窓口(コンタクトセンター)】



【Webサポート(ホームページ)】



信託

- ・ R&I評価に於いて「S評価」を取得しました。
- ・ 日本経済新聞社「第15回金融機関ランキング」の顧客満足度総合ランキングにて6位（前年度38位）となりました。また同「外貨預金の品ぞろえが充実」ランキングでは3年連続の首位を獲得しております。

(※1) J. D. パワー個人資産運用顧客満足度調査<全国系銀行部門>

出典：J. D. パワー2016-2018年個人資産運用顧客満足度調査。2018年の調査は、全国系銀行で投資サービスを利用している顧客2,626名から回答を得た結果 jdpower-japan.com

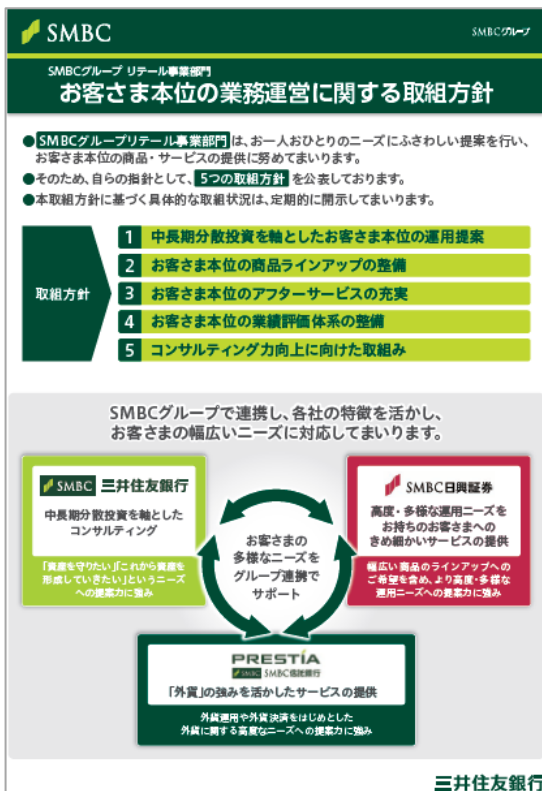
(※2) HDI（ヘルプデスク協会）はサポートサービス業界における世界最大の認定機関であり、世界で50,000の会員を有する。

【参考】お客さま本位の浸透に向けた取組み

銀行

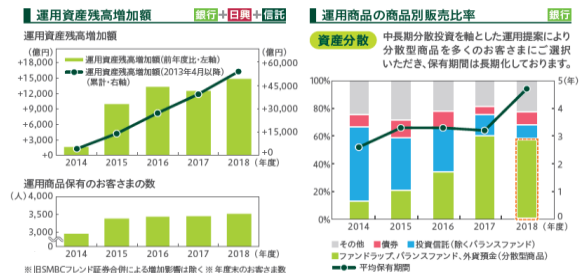
- ✓ お客さまから、安心してご相談をいただけるよう、資産運用業務に関する基本姿勢について、リーフレットを活用したご説明に努めております。
- ✓ 「お客さま本位」の考え方や行動について、従業員が自ら考え理解を深めるため、「お客さま本位 Day」と称し、各営業拠点でディスカッションを実施しております。

＜「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」リーフレット＞



1 中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案

多くのお客さまが「資産を守りたい」というニーズや「これから資産を形成していきたい」というニーズに的確に対応することを主眼に、中長期分散投資を軸としたお客さま本位の運用提案を行ってまいります。



日興

- ✓ お客さま本位の精神は、経営理念の中に創業時より受け継がれており、その実践に日々取り組んでおります。今年度より、創業記念日である7月7日を「経営理念の日」と位置付け、全役社員が改めてディスカッションする機会を設けることで、社員一人ひとりが原点に立ち戻り、経営理念をはじめお客さま本位について社内への更なる浸透・定着・実践を図っております。

信託

- ✓ お客さま本位の業務運営に関するホームページを作成し、広く周知できるよう努めております。
- ✓ 格付投資情報センター（R&I）による格付け結果がより分かるよう盾を各支店に配置し、支店従業員のお客さま本位の業務運営に対する意識向上を図っております。

【参考】情報提供コンテンツの充実

銀行

- ✓ お客さまの金融リテラシー向上等を図ることを目的に、銀行では、資産運用啓発コンテンツサイト「Money VIVA(マネービバ)」を公開しております。2019年3月のアクセス数は22.5万人となっております。

<Money VIVA>



スマートフォンは
こちらから



【参考】新たな投資サービスの提供

日興

- ✓ 投資情報サービス「FROGGY(フログギー)」が2019年2月から「記事から株が買える投資サービス」に進化。500円から投資でき、100万円以下の買いなら手数料無料で取引できます。

<FROGGY>

＼ここが新しい！／

FROGGYの「5つの特徴」

記事から
企業と出会う

500円から
株主デビュー

買う時の
手数料はゼロ

投資を学び
成長できる

読むべき情報と
出会う

※100万円以下の買いのみ

スマートフォンは
こちらから



①記事を見る



②気になる会社をチェック



③そのまま株を買う



④成長する

